特別版

できる®
Chromebookから始まるDX
デジタルトランスフォーメーション

株式会社ストリートスマート＆できるシリーズ編集部

それぞれの立場で
DX×Chromebook
がよくわかる！

一般社員

IT管理者

マネジメント層

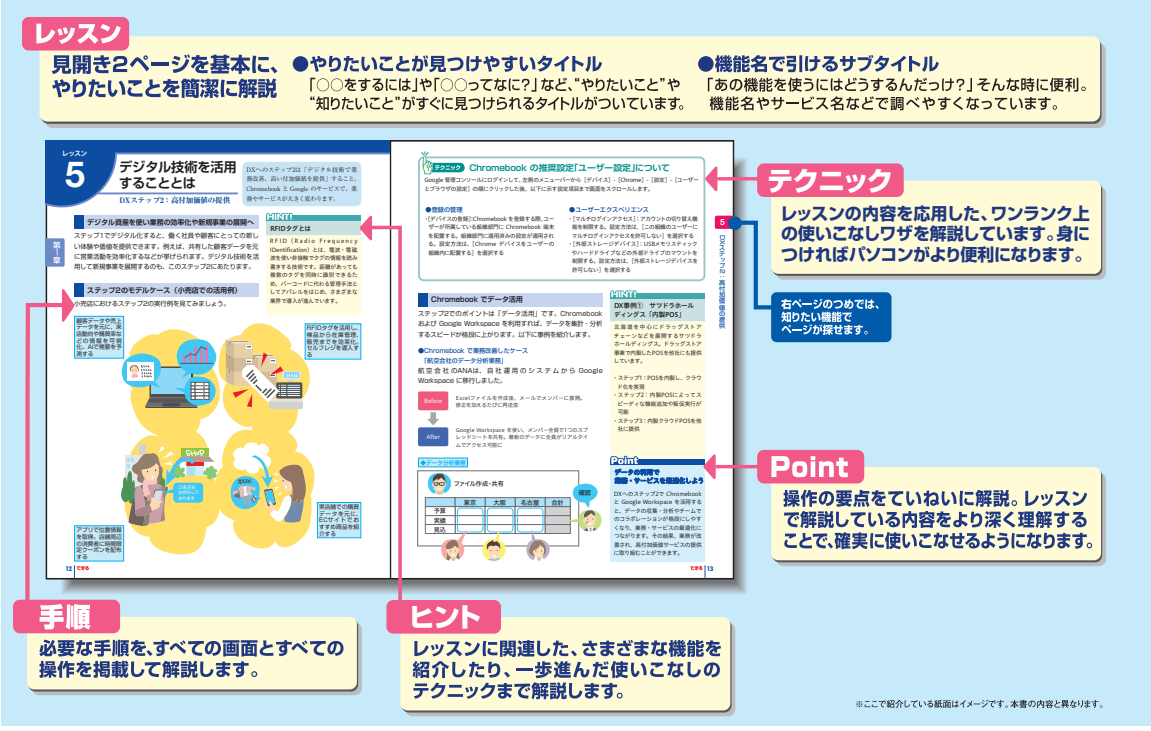
シリーズ累計7500万部突破※1
ベストセラー 売上No.1※2

※1：当社調べ　※2：大手書店チェーン調べ

簡単・軽快・セキュア！ ChromebookでDXを推進。

インプレス

本書の読み方



●用語の使い方

本文中で使用している用語は、基本的に実際の画面に表示される名称に則っています。

●本書の前提

本書では、「Chromebook」と「Google Chrome OS」がインストールされているパソコンで、インターネットに常時接続されている環境を前提に画面を再現しています。

「できる」「できるシリーズ」は、株式会社インプレスの登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーおよびサービス提供元の登録商標または商標です。
なお、本文中には™および®マークは明記していません。

Copyright © 2022 STREET SMART. All rights reserved.
本書の内容はすべて、著作権法によって保護されています。著者および発行者の許可を得ず、転載、複写、複製等の利用はできません。

まえがき

2018年ごろから「デジタル・トランスフォーメーション（DX）」の必要性が叫ばれ、デジタル技術を用いたビジネスの変革、働き方の改革が求められています。期せずして新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、多くの企業で業務のデジタル化が進んだほか、中にはビジネスモデル自体を変革した企業も現れました。この1～2年で多くの人の働き方が強制的に大きく変わりました。テレワークの導入などで、柔軟な働き方が可能になった方も多いのではないでしょうか。

しかし、根本的に働き方やビジネスを変革した企業がある一方で、何から手を付ければよいのか、どのように進めればよいのかが分からず、思うように組織や働き方を変えられていない企業や組織がまだ数多く見受けられます。また「DX」という言葉だけが先走り、「DX」の意味を理解しないままやみくもにデジタル化への投資を進めてしまう危険性もあります。

本書は、そんな企業に向けたDX推進の指南書です。DX実現までの3つのステップについて解説しつつ、DXへの最初の一歩を踏み出すのに最適なパートナー「Chromebook（クロームブック）」の活用方法を紹介します。Chromebook は Google の「Chrome OS」を搭載したコンピューターです。誰でも使いやすく、高度なセキュリティ対策が可能で、一括管理や運用が簡単といった特長を備えたChromebook を使えば、今すぐ気軽にDXを始められます。

本書では「一般社員」「IT管理者」「マネジメント層」という3つの立場・視点からDXにアプローチします。それぞれの立場から見たDXの意義やメリットを解説するとともに、Chromebook をどのように活用すればよいのか、具体的なシーンと操作方法を交えながら紹介します。

また、さまざまな業種・業界におけるDX事例も豊富に掲載するほか、巻末の付録では、DXを組織全体で実現するための Chromebook の展開方法を、ケーススタディとして業界別に紹介します。本書を読み進めるにつれ、DXとは何か、どのようにDXを推進すればよいのか、あいまいなイメージではなく、具体的にやるべきアクションとしてご理解いただけることと思います。DXは企業の競争優位性を築き、1人ひとりが幸せに働くための手段です。皆さんにとって本書が、DX推進のはじめの一歩を踏み出す助けになれば幸いです。

2022年1月　株式会社ストリートスマート

目　次

第1章　Chromebook から始まるDXの3ステップ　3

❶ Chromebook を活用したDXとは　＜本書の使い方＞……4
❷ Chromebook の特長を活かしたDXとは　＜Chromebook の特長とメリット＞……6
❸ DX実現に向けた3つのステップとは　＜DXの3ステップと意義＞……8
❹ デジタル化の意味を知ろう　＜DXステップ1：既存業務のデジタル化＞……10
❺ デジタル技術を活用しよう　＜DXステップ2：高付加価値の提供＞……12
❻ デジタル技術による変革とは　＜DXステップ3：組織全体・社会を変革＞……14

この章のまとめ……16

目　次（つづき）

第2章　一般社員による Chromebook の活用法 17

❼ Chromebook が変える新しい働き方とは　＜一般社員の働き方改革＞……18
❽ Chromebook の便利な機能を知ろう　＜Chromebook の機能＞……20

この章のまとめ……26

第3章　IT管理者から見た Chromebook の利点とは 27

❾ DXでIT管理者の作業負荷を軽減しよう　＜Chromebook 導入のメリット＞……28
❿ Chromebook で全社環境を構築しよう　＜Chromebook での環境構築＞……30
⓫ Chromebook でポリシーを設定するには　＜Chromebook の端末制御＞……32
⓬ なぜ Chromebook はセキュアなのか　＜Chromebook のセキュリティ＞……34
⓭ Chromebook の利用を開始するには　＜Chromebook のセットアップ＞……36

テクニック　おすすめのデバイス設定とは……40
テクニック　ユーザーの詳細設定方法を知ろう……40
テクニック　Wi-Fiやプリンターの設定をするには……41

この章のまとめ……42

第4章　マネジメント層のための Chromebook × DX 43

⓮ 現場とオフィスを接続するメリットとは　＜データ活用に向けた土台づくり＞……44
⓯ 現場の的確な判断を実現するには　＜現場でのデータ活用の効果＞……46
⓰ 多様な働き方を実現するには　＜テレワークとクラウド活用＞……48
⓱ 新たな企業価値を創造し進化するDXとは　＜創造力発揮の仕組み＞……50

この章のまとめ……52

付録　業界別 Chromebook でできるDX推進事例集 53

付録1　業務におけるメリットを再確認しよう　＜業務における4つのメリット＞……54
付録2　製造業のDX事例　＜製造業での Chromebook 活用＞……56
付録3　建設・不動産業でのDX事例　＜建設・不動産業での Chromebook 活用＞……58
付録4　小売業でのDX事例　＜小売業での Chromebook 活用＞……60
付録5　飲食業でのDX事例　＜飲食業での Chromebook 活用＞……62

第1章 Chromebook から始まるDXの3ステップ

組織のDXにとって Chromebook はどういう役割を担うのでしょうか。「一般社員」「IT管理者」「組織のマネジメント層」など、組織内の役割によって取り組むべきことは変わりますが、より付加価値の高い業務や組織とするために Chromebook × DX をどのように進めればいいか、分かりやすく説明します。

●この章の内容

❶ Chromebook を活用したDXとは …… 4
❷ Chromebook の特長を活かしたDXとは …… 6
❸ DX実現に向けた3つのステップとは …… 8
❹ デジタル化の意味を知ろう …… 10
❺ デジタル技術を活用しよう …… 12
❻ デジタル技術による変革とは …… 14

レッスン

1 Chromebook を活用したDXとは

本書の使い方

DX実現の第一歩として Chromebook を導入する際、どのような準備や心構えが必要なのでしょうか。ここでは、組織内での役割別に説明します。

組織内の役割に応じた成功イメージを理解する

Chromebook の使い方は極めてシンプル。そのためデバイスとしての使い方に困ることは少ないでしょう。ただし、Chromebook を活用してDXを実現するには、その目的やポイントを押さえることが重要です。本書では、Chromebook の活用方法を企業内の役割別にそれぞれ紹介します。

●一般社員として Chromebook を利用する

直感的に使える Chromebook は、IT機器を使い慣れていない社員にもおすすめ。Google Meet を使ったビデオ会議など、業務での利用もスムーズで、スマートな働き方を推進します。

●IT管理者として Chromebook を管理する

Chromebook の運用は、Google 管理コンソールと呼ばれるブラウザ上の管理画面で一括対応が可能です。セキュリティ対策も充実しており、導入時の初期設定もシンプルです。

●マネジメント層として Chromebook を活用したDXをリードする

他社の導入事例や業務プロセスへの組み込み方法を参考に、組織全体のDXへのIT投資として Chromebook 導入を検討します。

HINT!

「DX」を魔法のキーワードとして取り組まない

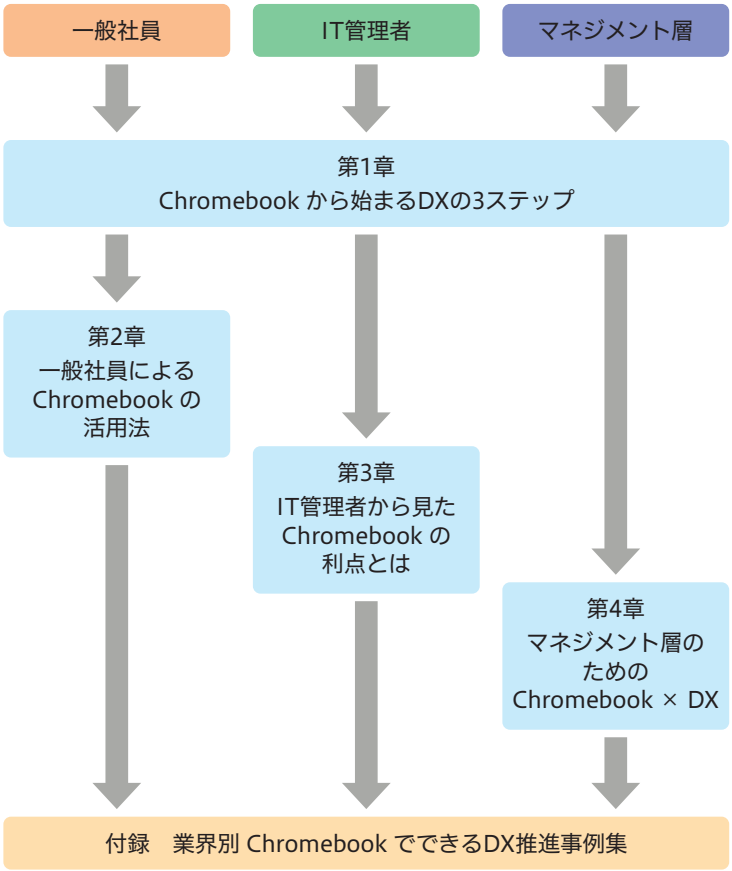
さまざまな企業でDXというワードが事業方針などで見られるようになりました。一方で、実際の現場では「具体的に何をどうしたらよいの？」といった声を聞くことも。また、IT投資を進めるうえでカギとなるIT管理部門では、通常運用だけでなく追加のシステム対応が負荷となるケースがあります。

DXは唱えれば実現できる魔法の言葉ではないため、急に大きな目標実現に取り組むのではなく、ゴールから逆算したマイルストーンごとにステップを進めることが必要です。

企業のゴールとして何を目指すのかを描き、縦軸（マネジメントがやること／IT管理部門がやること／全社現場で進めること）×横軸（時間軸で分けていつまでに何をやるのか）を整理しましょう。

組織内の役割別の本書の活用法

組織内の役割ごとに、本書の下記ページを読むことをおすすめします。なお、ほかの章も参考として見てみましょう。



Google 公式のガイドページについて

Google の公式サイトでは、「企業の事例」や「テレワークのための Chromebook 設定に関するガイド」など、さまざまなガイドコンテンツを掲載しています。

▼Chrome Enterprise のリソース

https://chromeenterprise.google/intl/ja_jp/resources/

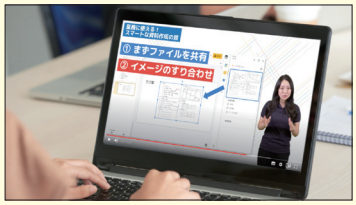
HINT!

Google Workspace の活用方法をすぐに学べる

本書で紹介する Chromebook は、Google Workspace と組み合わせることで、その真価を発揮します。弊社では、動画教材を使ったeラーニングサービス「Master Program」を提供しています。
初めてでも、Google Workspace の使い方がよく分かります。

▼Master Program

https://www.master-apps.jp/master-program/



業務での活用方法を動画で学べる

Point

必要なページだけ、興味のあるページだけをチェック

本書では、各章で社内での役割に合わせた Chromebook の活用方法を紹介しています。自身に必要なページを読んでいき、Chromebook を導入してどのような成果を生み出したいのかを整理してください。次のレッスンからは、Chromebook の特長を踏まえ、DX実現に向けた3つのステップを解説します。

レッスン
2 Chromebook の特長を活かしたDXとは

Chromebook の特長とメリット

このレッスンでは、企業でDXを進めるために知っておきたい Chromebook の特長を紹介します。セキュリティが高く、管理・運用しやすいのが最大の特長です。

Chromebook の特長

●起動が高速で、スマートフォンのようにすぐに使える

WindowsやMacより起動が高速のため、スマートフォンやタブレットのように、使いたいときにすぐに利用できます。

●多層防御でセキュリティも高い

Chromebook はアップデートが自動的に行われ、常に最新バージョンで操作できます。さらに複数の機能で情報を保護しているので、たとえ1つの機能が破られても、ほかの機能で脅威を封じ込めることができます。

●一括管理が容易で、運用が簡単

Chromebook のデバイスポリシー設定は、Google 管理コンソールで簡単に設定できます。設定内容を Google アカウントにひも付ければ、各端末への反映も簡単です。これまで何日もかかっていたキッティング作業から解放されます。

HINT!

Chrome OS とは

「Chrome OS（クロームオーエス）」は、パソコンやスマートフォン・タブレットで広く使われているブラウザ「Chrome（クローム）」をベースに、Google が開発したOS（オペレーションシステム）です。最近はOSのシェアも伸びてきており、教育現場では「GIGAスクール構想」による1人1台端末の整備が進み、トップシェアを獲得しています。

Chromebook の特長を活かしてDXを推進

企業内の役割を大きく「一般社員」「IT管理者」「マネジメント層」に分けて、それぞれの立場の視点から Chromebook 使用のメリットを紹介します。

●一般社員としてのメリット

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、多くの企業でテレワークが導入され、働き方が大きく変わっています。Chromebook は、ほかのパソコンに比べて、シンプルで分かりやすく、あまりパソコンに慣れていないユーザーでも、直感的に利用できます。

●IT管理者としてのメリット

Chromebook は一括管理できて、運用に大きな負担がない端末です。キッティングの手間もかからず、スピーディに導入を進めることができます。

●マネジメント層としてのメリット

Chromebook はセキュリティが高いうえ大量導入がしやすく、管理・運用にかかるコストも大幅に削減可能です。組織のDX実現へ向けたスマートな投資となるでしょう。

使いやすく管理の手間も減らせる Chromebook は、社員1人1台端末の推進に最適

HINT!

Chrome OS の自動更新ポリシーについて

Chromebook に搭載されている Chrome OS は「自動更新ポリシー」によってサポート期間が定められており、期間中は定期的に自動更新されます。したがって高いレベルでセキュリティと安全性が担保されています。
自動更新の有効期限（Auto Update Expiration；AUE）は端末の機種ごとに定められており、以下のサイトに記載されています。

▼Google Chrome Enterprise「自動更新ポリシー」
https://support.google.com/chrome/a/answer/6220366/

Point

それぞれの立場でDXを推進していこう

「一般社員」「IT管理者」「マネジメント層」といったそれぞれの立場で、Chromebook の特長を活かして、DXを推進できます。Chromebook は、企業におけるDXのファーストステップに最適なデジタルデバイスです。

レッスン
3 DX実現に向けた3つのステップとは

DXの3ステップと意義

「DX」とは何を指すのでしょうか。ここでは一般社員、IT管理者、マネジメント層にとってのDXの意義と、DXへの3ステップについて順を追って解説します。

DXとは

DXはDigital Transformation（デジタル・トランスフォーメーション）の略称です。DXとは単なるデジタル化、IT化を指すのではなく、デジタル技術を活用して組織全体や社会に「変革（トランスフォーメーション）」をもたらすことが目標となります。DXの実現が難しいと感じるときは、このレッスンで紹介する3つのステップに分けて考えてみましょう。

DXの意義とは

●一般社員にとってのDXとは

一般社員にとってのDXは、「生産性を上げる」「働き方を変える」といった変化を意味しています。テレワークなどにより人事評価の軸が変わるだけでなく、働く人に楽しみや幸せをもたらします。

●IT管理者にとってのDXとは

IT管理者は、DXによる事業価値創出のハブの役割を担います。ボトルネックになりがちな運用プロセスの煩雑さを避けつつ、成果を上げるために、ツールの選定を含めたIT管理の生産性を高める必要があります。

●マネジメント層にとってのDXとは

組織のマネジメント層にとってDXは、企業の競争優位性や継続性を実現するために必要不可欠です。デジタル技術は拡大を続けており、既存事業を破壊する可能性もあります。今ある事業だけではなく、DXによる企業の変化が新たな価値にもつながります。

社内での役割に応じたDX推進を目指す

HINT!

既存企業を脅かすデジタルディスラプション

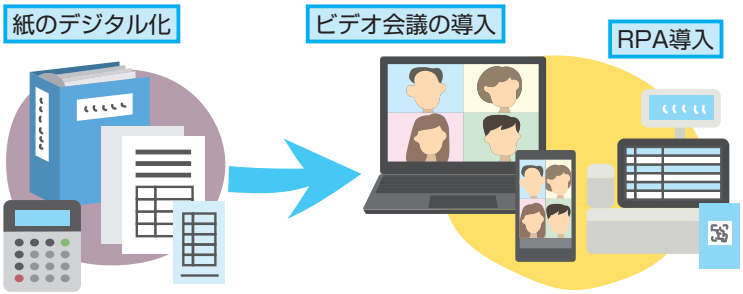
デジタルディスラプション（Digital Disruption）とは、デジタル技術による破壊的・革新的なイノベーションのことです。デジタルディスラプションを起こす企業のことをデジタルディスラプター（破壊的企業）と呼びます（例：Amazon、Uber、Netflix）。ディスラプターは従来のビジネスモデルを根幹から揺るがし、既存企業の存続を困難にさせます。ディスラプターに対抗するためにも、DXが必要です。

DX実現までの3ステップ

一足飛びにDXを達成することはできません。DXの成功に必要な3つのステップを紹介します。

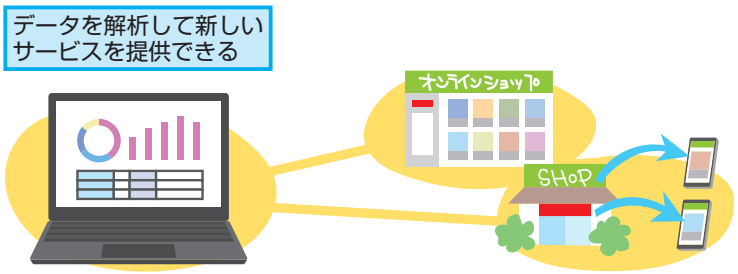
●ステップ1　今あるものをデジタル化

現在行われている業務をデジタル化、オンライン化、自動化します。



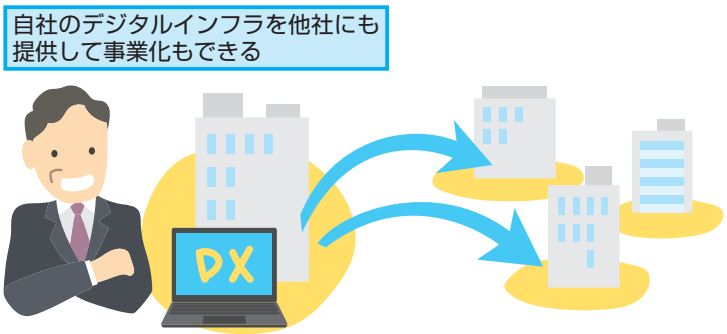
●ステップ2　デジタル技術を活用し業務改善。高い付加価値の提供

デジタル化したものを利活用して業務を改善し、高付加価値サービスを提供します。デジタル技術を活用した新規事業の展開も、このステップ2で行います。



●ステップ3　競争優位性を築き、組織全体・社会を変革

デジタル技術を活用し、組織やビジネスモデルを変革します。新しい働き方を組織全体に広げ、新規事業のメソッドを既存事業にも展開して、全社的な競争優位性を築きます。



HINT!

RPAで単純作業を自動化

RPAはRobotic Process Automation（ロボティック・プロセス・オートメーション）の略で、今まで人間が行っていた業務や作業をソフトウェアに代行させて、自動化することを指します。あらかじめ決められた作業を繰り返す場合などに活用すれば業務の効率化を図れます。

HINT!

多くの企業がDXへのファーストステップでつまずいている

経産省によると、95％の企業はDXに未着手、もしくは一部部門で取り組み始めた段階にとどまっています（経済産業省『DXレポート2（中間取りまとめ）』2020年）。つまり、ほかの企業に先んじてDXに取り組むチャンスともいえるでしょう。

Point

まずは既存業務のデジタル化から着手しよう

DXの推進というと、いきなりステップ3の段階を目指しがちです。デジタル技術やデータを利活用しようにも、既存の業務がデジタル化、データ化されていない状態では何もできません。まずは紙資料などのデジタル化から始め、DXの基礎を固めていきましょう。

デジタル化の意味を知ろう

DXステップ1：既存業務のデジタル化

DXへの最初のステップは「今あるものをデジタル化」して、デジタルインフラを整えることです。DXの基礎を固めるためにChromebook を活用しましょう。

書類のデジタル化やビデオ会議を推進

紙ベースの書類をデジタル化する、対面での会議をビデオ会議に移行するなど、今すでに行っている業務をデジタル化・オンライン化・自動化します。ステップ1では業務の内容自体は大きく変わりません。インフラとして、まずはこのデジタル化を徹底的に進め、ステップ2以降のデジタル活用につなげます。

ステップ1のモデルケース（小売店での活用例）

小売店におけるステップ1の実行例を見てみましょう。

HINT!

SaaSを活用してデジタル化を進めよう

SaaS（サース：Software as a Service）とは、インターネット経由で利用するソフトウェアサービスのことです。Google が提供する Google Workspace もSaaSの代表格で、DXへのステップ1をサポートします。

Chromebook で実現する「1人1台環境」

Chromebook は迅速に導入できるうえ、使い方や管理方法も分かりやすく簡単です。デジタル化への第一歩である「全員がデバイスを持ち、デジタル技術を取り入れていく」ことを容易に実現できます。

●全員がデバイスを持つことのインパクト

全員がデバイスを持つと、事業やサービス提供に直接かかわりやすくなります。Chromebook はパソコン操作に慣れていない人にも使いやすく、OSのアップデートなどの面倒な設定もバックグラウンドで行われるため、余計な作業を必要としません。クラウドベースのアプリケーションにより、場所や時間を問わない多様な働き方も実現できます。DXの一丁目一番地に「1人1台環境の整備」を強くおすすめします。

社員1人1台端末の整備がDXには重要

●デバイス整備の負荷を最小化して、投資をスマートに

管理・運用負荷を軽減できる Chromebook であれば、管理コストを抑えられます。また、Google Workspace や Google Cloud Platform などの Google が提供するクラウドサービスを合わせて利用すると、システムを個別に開発・資産化しなくてもさまざまな業務を実現できます。Chromebook とクラウドサービスの連携によって、デバイス整備に必要な投資をスマートに行いましょう。

HINT!

Chromebook の扱いやすさは学校現場への導入で証明済み

文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」は小・中・高等学校などで児童・生徒1人に1台の端末を支給し、高速通信環境を整備するというもの。まさにデジタル化の第一歩を踏み出したところです。
ITの専門家がいない学校現場で、1人1台端末を運用するのは大変ですが、全国の公立小中学校で配布された「GIGAスクール構想」端末のうち、Chromebook が43.8%を占めるという調査結果が出ています（MM総研『GIGAスクール構想実現に向けたICT環境整備調査』2021年）。
アメリカの教育現場でも Chromebook のシェアは圧倒的であり、その導入しやすさ、使いやすさ、管理のしやすさを物語っています。

Point

Chromebook でDXへの第一歩を踏み出そう

DXへのステップ1は今あるもののデジタル化。デジタル化を進めてインフラを整えることが、次のステップにつながります。Chromebook はシンプル・低負荷での導入・運用が可能なうえ、クラウドベースの拡張性も備えています。まずは1人1台のデバイス導入を目指し、デジタル技術を取り入れる素地を作りましょう。

レッスン
5 デジタル技術を活用しよう

DXステップ2：高付加価値の提供

DXへのステップ2は「デジタル技術で業務改善、高い付加価値を提供」すること。Chromebook と Google のサービスで、業務やサービスが大きく変わります。

デジタル資産を使い業務の効率化や新規事業の展開へ

ステップ1でデジタル化すると、働く社員や顧客にとっての新しい体験や価値を提供できます。例えば、共有した顧客データを元に営業活動を効率化するなどが挙げられます。デジタル技術を活用して新規事業を展開するのも、このステップ2にあたります。

ステップ2のモデルケース（小売店での活用例）

小売店におけるステップ2の実行例を見てみましょう。

HINT!

RFIDタグとは

RFID（Radio Frequency IDentification）とは、電波・電磁波を使い非接触でタグの情報を読み書きする技術です。距離があっても複数のタグを同時に識別できるため、バーコードに代わる管理手法としてアパレルをはじめ、さまざまな業界で導入が進んでいます。

顧客データや売上データを元に、来店動向や購買率などの情報を可視化。AIで需要を予測する

RFIDタグで検品から在庫管理、販売までを効率化。セルフレジを導入する

アプリで位置情報を取得。店舗周辺の消費者に時間限定クーポンを配布する

実店舗での購買データを元に、ECサイトでおすすめ商品を紹介する

Chromebook でデータ活用

ステップ2でのポイントは「データ活用」です。Chromebook および Google Workspace を利用すれば、データを集計・分析するスピードが格段に上がります。以下に事例を紹介します。

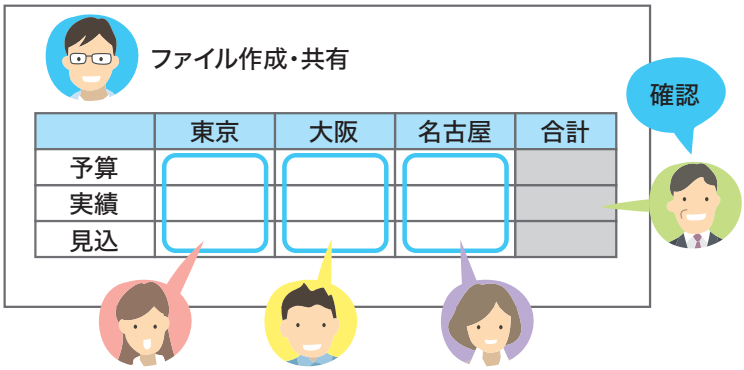
●Chromebook で業務改善したケース「航空会社のデータ分析業務」

航空会社のANAは、自社運用のシステムから Google Workspace に移行しました。 出典：workspace.google.co.jp

Before
Excelファイルを作成後、メールでメンバーに展開。修正を加えるたびに再送信

After
Google Workspace を使い、メンバー全員で1つのスプレッドシートを共有。最新のデータに全員がリアルタイムでアクセス可能に

◆データ分析業務



●Chromebook で新規事業を展開したケース「医療機関Webサイト」

米国のヘルスケア企業Doctor.comは、数千もの医療機関に Chromebook を導入し、患者と医師・医療機関とをつなぐプラットフォームを提供しています。 出典：chromeenterprise.google

Before
8割の患者がオンラインで医師や医療機関のレビューを確認して受診先を選択。しかし、帰宅後レビューを投稿する患者はほとんどいない

After
患者は、診察後すぐ医療機関にいながらレビューを投稿できるため、レビュー数が増加。これにより、患者は豊富な情報に基づいた受診先の選択が可能に

HINT!

生産性を向上する Google Workspace

Google Workspace には Gmail、Google カレンダー、Google Meet、Google Chat、Google ドライブ、Google ドキュメント、Google スプレッドシートといったサービスのほか、セキュリティ・管理アプリケーションも含まれます。Chromebook（Chrome OS）と同じ管理コンソールで一元管理ができ、Chromebook との相性も抜群です。

Point

データの利用で業務とサービスを最適化しよう

DXへのステップ2で Chromebook と Google Workspace を活用すると、データの収集・分析やチームでのコラボレーションが格段にしやすくなり、業務・サービスの最適化につながります。その結果、業務が改善され、高付加価値サービスの提供に取り組むことができます。

デジタル技術による変革とは

DXステップ3：組織全体・社会を変革

DXへの最後のステップです。ステップ3は「デジタル技術で競争優位性を築き、組織全体・社会を変革」すること。その実例を紹介します。

DXで組織全体・社会を変革

ここまでくると、1人の社員や1つの部署だけの変化にとどまらず、組織全体が変わり、社外へも影響を与える存在となります。

ステップ3のモデルケース（小売店での活用例）

小売店におけるステップ3の実行例を見てみましょう。

全社規模の変革の実行例について

ステップ3では、会社規模でのデジタル技術活用や、獲得した新しい事業を他社に展開できるようになります。以下に事例を紹介します。

●Chromebook（Google Workspace）で全社の働き方を変革したケース

米国の消費者金融サービス企業Synchrony Financialは、コロナ禍によりコールセンター従業員6,000人に Chromebook を支給。数週間で部門すべてをリモート化しました。

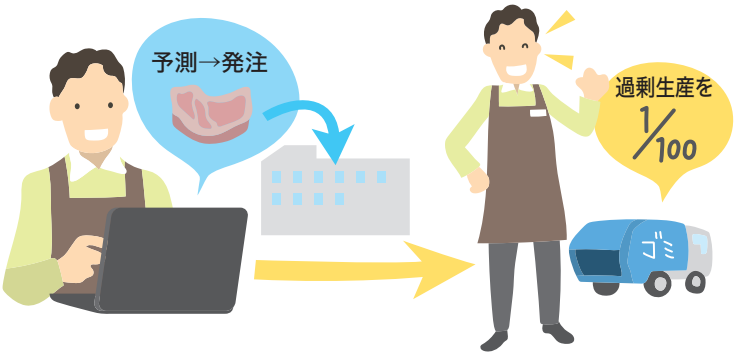
出典：chromeenterprise.google

1人1台端末により、コールセンター業務をテレワークに

●Chromebook で社外にまでインパクトを与えたケース

米国の食品小売企業Schnuck Marketsは、Chromebook の導入により業務を紙ベースからデジタルベースへ大きく移行しました。結果、予測と発注の精度が向上し、食品の過剰生産を従来の100分の1にまで削減することに成功。食品廃棄を減らし、「環境負荷の軽減」を実現しました。 出典：chromeenterprise.google

デジタル資産の活用により、食品廃棄を大幅に削減



HINT!

Chromebook 導入事例を見てみよう

Google の公式サイトで、Chromebook をはじめとする Google サービスの導入事例を確認できます。

▼Chrome Enterprise「事例のご紹介」
https://chromeenterprise.google/intl/ja_jp/customers/

Point

Chromebook 導入は DXの最終目標につながる

DXとはデジタル技術で競争優位性を築き、組織全体・社会を変革することです。ただし、急に大きな変化に取り組むことは難しいでしょう。Chromebook の導入がすぐに全社的な変革に直結するわけではありませんが、ゴールを考えながら、最初の一歩として今できることに取り組むことをおすすめします。

この章のまとめ

Chromebook は DX の最初のステップに最適

DXには大きく3つのステップがあります。まずは「今あるものをデジタル化」。そして「デジタル技術による業務改善、高付加価値の提供」。最後に「DXで組織全体を変革、社会に影響」です。すでにこれらのステップを実施している事例は多くあり、参考にすることができます。Chromebook は、企業のDXのファーストステップである「デジタル化」に最適な端末です。企業の「一般社員」「IT管理者」「マネジメント層」といったそれぞれの立場で Chromebook の特長を活かし、DX実現に向けた最初の一歩を踏み出しましょう。

全社に整備しやすい Chromebook

一般社員からマネジメント層まで、社内のあらゆる立場の人に大きなメリットがあり、デジタル化の推進に最適

第2章 一般社員による Chromebook の活用法

一般社員が1人1台端末として Chromebook を持つことで、働き方が大きく変わります。Chromebook をどのように活用すると働き方が変わるのか、具体的な活用方法を解説します。

●この章の内容

❼ Chromebook が変える新しい働き方とは……18
❽ Chromebook の便利な機能を知ろう……20

レッスン
7

Chromebook が変える新しい働き方とは

一般社員の働き方改革

組織における1人1台の Chromebook 支給は、DXの第一歩です。このレッスンでは、Chromebook で働き方がどのように変わっていくのかを説明します。

1人1台の Chromebook から始まるDX

一般社員にとってのDXとは「働き方を変え、自身の生産性を上げる」ことです。Chromebook を1人1台持つことで、働き方が次のように変わります。一般社員の身近なところからデジタル化を進め、業務をより簡単・効率的に行いましょう。

- 組織全員が事業やサービス提供によりかかわりやすくなる
- 「DXを自らが推進していく」という意識変革が起こる
- 生産性の高い働き方ができるようになる

HINT!

シンプル・簡単操作の Chromebook を使ってみよう

Chromebook を使い始めるには、自身の Google アカウントでログインするだけです。Chromebook は Chrome ブラウザをベースにした Chrome OS で動いており、操作方法も簡単で、WindowsやMacの利用経験があれば、すぐに使い始められます。スマートフォンのような軽快な動作の Chromebook を、生産性向上の一助としてください。

Chromebook の利用で一般社員の働き方が変わり、組織に真のDXがもたらされる

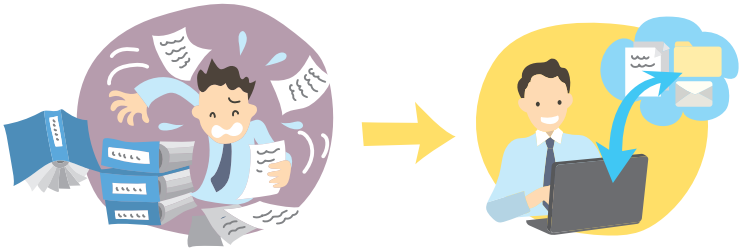
Chromebook が働き方を変える

一般社員が業務で利用するさまざまなものをデジタル化すれば、業務の効率化を図れます。ビデオ会議サービスなどの活用により、社内外とのコミュニケーション手段も変わります。

●書類のデジタル化

紙の書類は、整理や配布・回収が煩雑で手間がかかる

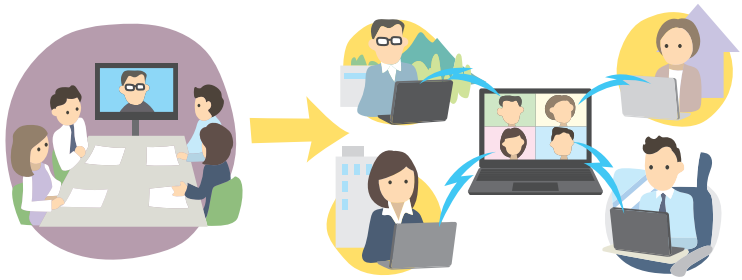
デジタル化により、共有ファイルに全員がアクセス可能



●ビデオ会議システムの利用

会議室に社員が集まって、取引先とのビデオ会議を行う

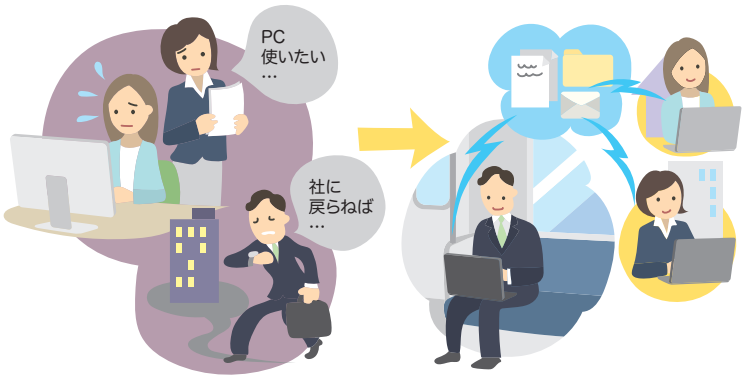
自宅や外出先など、ワークスタイルに合わせて参加できる



●1人1台端末の整備

共用パソコンでの作業は、ほかの社員の業務に影響される

時間や場所に関係なく、自分の業務に集中できる



HINT!

Google フォームを使えば、情報収集が簡単に

情報収集を行う際、紙の帳票の代わりに Google フォームを使うと便利です。Google フォームで収集した情報は Google スプレッドシートに自動集計され、すぐに閲覧・分析が可能です。

HINT!

1人ずつのアカウント支給でセキュアな環境を実現

共用デバイスでは、誰がいつどのような操作を行ったかなどのログが取れず、セキュリティ事故が起きた際の対応が困難です。1人1台端末で、しかも1つのアカウントを持つことで、アカウントごとのログも取得でき、セキュアな環境下で業務が行えます。

Point

Chromebook で柔軟な働き方を実現

Chromebook を1人1台持てば、これまでとは違う働き方ができるようになり、生産性も高まります。「DXを自らが推進していくのだ」という一般社員の意識改革が進むことは、組織全体のDXにもつながります。

レッスン
8 Chromebook の便利な機能を知ろう

Chromebook の機能

今すぐ使いたい、Chromebook の便利な機能を具体的に紹介します。ビデオ会議やクラウドストレージなどを活用して新しい働き方を目指しましょう。

テレワーク導入により普及してきたビデオ会議

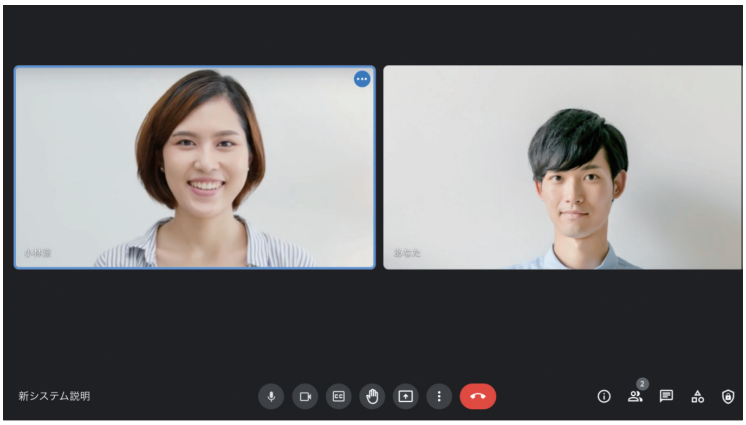
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、多くの企業でテレワークが導入され、ビデオ会議も当たり前になりました。Chromebook は、さまざまなビデオ会議サービスに対応しており、ブラウザやアプリを使って、簡単にビデオ会議を始められます。

社員全員が自分のデバイスからビデオ会議を利用できれば、働く場所を問わず、コミュニケーションが取れます。移動時間や出張費も大幅に削減できるでしょう。

Chromebook と相性がいい Google Meet

Google Meet は Google アカウントで利用できるビデオ会議サービスです。専用のアプリは不要で、ブラウザを使えば簡単にビデオ会議を開始できます。会議に招待される側は Google アカウントがなくても利用可能です。Gmail や Google カレンダーなど、ほかの Google サービスとの連携も簡単なので、Chromebook で利用するには最適なサービスです。

◆Google Meet
ブラウザで素早くビデオ会議が始められる



HINT!

いろいろなビデオ会議サービスの使い方を確認しておこう

このレッスンで紹介しているGoogle Meet、Zoom、Microsoft Teams以外に、シスコシステムズのCisco Webex（ウェブエックス）もよく使われているビデオ会議サービスです。ビデオ会議に招待されたら、Chromebook での参加方法（ブラウザ、アプリなど）や操作方法を事前に確認し、準備しておきましょう。

HINT!

Google カレンダーを使って会議を開催しよう

Google カレンダーで会議の予定を登録すると、参加メンバーにメールが送られ、ビデオ会議（Google Meet）が自動的に設定されます。参加者はメールに記載されたURLをクリックするだけで、会議に参加できます。

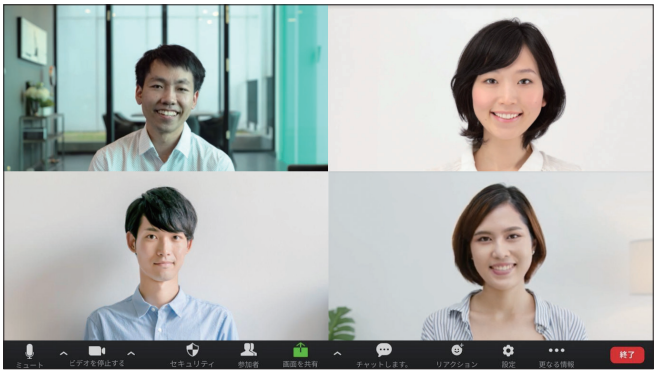
Chromebook で利用可能なビデオ会議サービス

Chromebook では、Google Meet 以外にもさまざまなビデオ会議サービスを利用できます。サービスによっては、専用アプリのインストールが必要です。

●世界中で使われているZoom

Zoom（ズーム）はビデオ会議サービスの中で最も利用者が多く、ビジネスからプライベートまで幅広いシーンで利用されています。Chromebook では、Google Play ストアからAndroid アプリをインストールしたり、Chrome の拡張機能をインストールして利用できます（一部機能制限あり）。

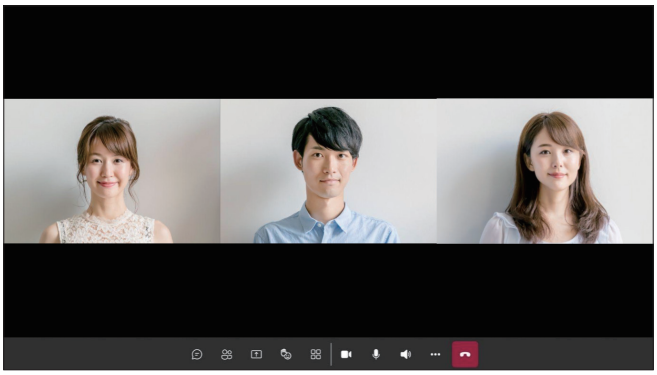
Google アカウントを使ってZoomにもサインインできる



●多機能でビジネス利用が多いMicrosoft Teams

Teams（チームズ）は、マイクロソフトが提供しているビデオ会議サービスです。ビデオ会議だけでなく、チャットやファイル共有などもできる多機能なサービスです。Chromebook では Android アプリやブラウザで利用できます。

Microsoft Teamsでビデオ会議を開催するには
Microsoftアカウントが必要



HINT!

ビデオ会議の録画は、参加者の同意が得られてから

多くのビデオ会議サービスでは、会議の録画が可能です。録画する際には、必ず参加者の同意を得るようにしましょう。後々残るデータであるからこその配慮が必要です。

HINT!

自分が発言するときだけ、マイクをオンにしよう

多くのビデオ会議サービスでは、画面上でマイクのオン･オフ（ミュート）を操作できます。ビデオ会議中、マイクがオンになっていると、話していなくても周囲の音が入ってしまうことがあります。発言しないときはマイクをオフにし、自分が話すときだけオンにしましょう。

HINT!

画面の共有方法を確認しておこう

ビデオ会議中、自分の手元にある資料を画面で共有する機会があります。サービスによって画面共有の方法が異なるため、事前に操作方法を確認しておきましょう。

次のページに続く

ビデオ会議を円滑に進める Google サービス

Google カレンダーでの会議予約など、Chromebook でビデオ会議を効率的に進めるための Google サービスを紹介します。

●ビデオ会議の予約と議事録添付

Google カレンダーで会議の予定を登録すると、参加メンバーにメールが送られ、ビデオ会議（Google Meet）が自動的に設定されます。さらに、議題などのメモを Google ドキュメントで作成して会議予定に添付すれば、メンバーが事前に目を通せます。会議中は Google ドキュメントで作成したメモをメンバーで同時に編集し、会議後の議事録としても利用できます。

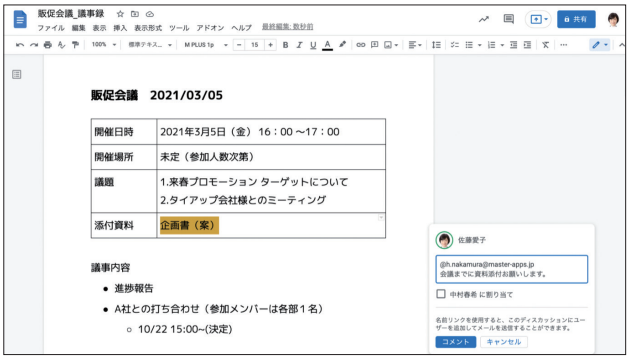
会議予約と議題作成、会議中の議事録作成までスムーズに作業できる

◆Google カレンダー　◆Google ドキュメント

●コメント機能で事前にコミュニケーション

Google ドキュメントのコメント機能を使うと、会議の参加メンバーとより密なコミュニケーションが取れます。例えば、会議前の議題メモに気になる点や確認事項などをコメントしておくと、会議時間の短縮や効率化が図れます。

Google ドキュメントでは、追加したコメントに対して返信もできる



HINT!

Google Workspace で、Google サービスをフル活用

Google Workspace のさまざまなサービスを活用すれば、組織内のメンバーとのコラボレーションが格段にしやすくなり、業務の効率化や最適化につながります。業務改善によって時間の余裕が生まれ、新たな価値を提供できるようになるでしょう。

HINT!

カレンダーの予定から、すぐに「会議メモ」を作成

Google カレンダーの会議予定には、［会議メモを使用］というリンクがあります。クリックすると予定名や参加者の名前が記載された Google ドキュメントが新規作成され、そのまま会議予定に添付されます。

HINT!

Google スプレッドシートや Google スライドでも、コメント機能が使える

コメント機能は、Google スプレッドシートや Google スライドでも利用できます。共同編集とコメント機能を活用すれば、資料作成がさらに効率化します。

共有ファイルを保存できる Google ドライブ

Google ドライブは、Chromebook で作成した各種ファイルをはじめ、PDFファイルや画像などを保存できるクラウドストレージです。目当てのファイルが見つからないときもインターネットで検索するように探せます。ファイルの中のテキストや画像の文字も認識して、検索結果に表示されます。

◆Google ドライブ

ブラウザ上で編集できる Google アプリ

Google ドライブに保存したファイルによっては、ブラウザ上で Google スプレッドシートや Google ドキュメントなどを起動して、編集が可能です。また、WordなどのOfficeファイルとも互換性があり、自動的に変換されてブラウザ上で表示されます（一部制限あり）。

Excelで作成したファイルを Google スプレッドシートで表示すると、画面上部に拡張子が表示される

HINT!

圧倒的な Google の検索能力

Google の検索技術は、さまざまな業務シーンにおいても圧倒的な力を発揮します。メールサービスの Gmail は、必要なメールを検索によってすぐに見つけられます。そのため、これまでのようにメールをフォルダに振り分けて整理する必要がなくなります。コラボレーションツールの Google Workspace では、Gmail、Google ドライブなどの Google サービスを横断した検索も可能です（Cloud Search）。

HINT!

複雑な書式が設定された Officeファイルの編集には注意が必要

Google ドライブに保存したOfficeファイルの編集は、あくまで Google の機能を使っての編集となるため、互換性は完全ではありません。元の書式が崩れる場合もあるので、複雑な書式が設定されているOfficeファイルは、事前にコピーして違いを確認するなど、注意が必要です。

次のページに続く

共同作業をスムーズに進めるコメント機能

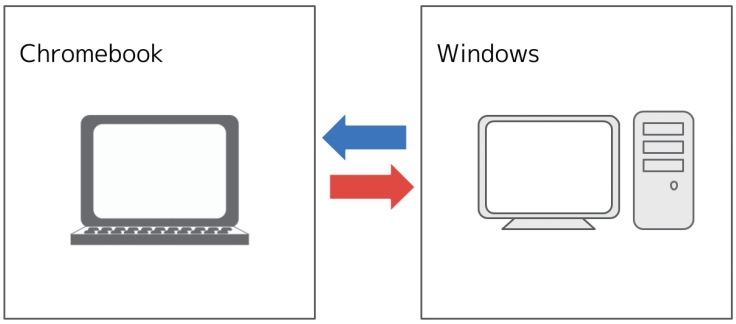
コメントを利用するのに専用のアプリをインストールする必要はありません。また、メールなどでファイルに関する修正指示を伝える手間もなくなります。

Google ドライブでPDFファイルをメンバーに共有した後、場所を指定してコメントを追加できる

コメントした相手にはメールで通知される

遠隔操作できる Chrome リモートデスクトップ

Chrome リモートデスクトップを使って、離れた場所にあるWindowsパソコンの画面を操作できます。あらかじめ、遠隔でアクセスしたいWindowsパソコンをセットアップしておけば、どこからでもWindowsパソコンを操作可能です。

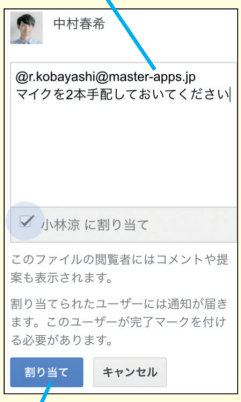


HINT!

ファイル上でタスクを割り当て、作業を指示できる

コメント機能を使えば、メンバーにタスクを割り当てて、作業を指示できます。コメントした相手にはメールで通知されるので、別途メールでの連絡は不要です。作業が完了したらチェックボタンをクリックしてアクションを完了します。

作業を割り当てたい相手を指定する



[割り当て]をクリックすると、相手に通知される

HINT!

パソコンの遠隔操作は、事前にIT管理者へ相談を

会社などにあるWindowsパソコンを遠隔操作する場合は、事前にIT管理者に問い合わせましょう。ネットワークやセキュリティの観点から、Chrome リモートデスクトップの利用を禁止している場合もあります。

デジタルサイネージになるキオスクモード

Chromebook で利用できるキオスクモードとは、Chromebook の機能を限定し、1つのサービスのみを起動する設定のことです。例えば、受付の案内掲示板や社内の周知事項などを表示して掲示板代わりに利用したり、売上情報が入力された Google スプレッドシートを表示して、拠点や部署でいつでも見られるようにしたりと、さまざまなシーンで活用できます。

●ケース①　スタッフの予定表

Google カレンダーを Chromebook のキオスクモードで固定表示し、リアルタイムに更新する

●ケース②　会議室や来訪者予定の表示

Google カレンダーに会議室専用カレンダーを用意し、Chromebook のキオスクモードで固定表示

●ケース③　社内掲示情報の表示

Google スライドで社内掲示情報をスライドショーにして、Chromebook のキオスクモードで固定表示

HINT!

デジタルサイネージとは

デジタルサイネージとは、ディスプレイを設置して情報を掲示するシステムのこと。最近では駅や店舗の広告が、紙からデジタルサイネージに移行しています。オフィス内でも、ホワイトボードや掲示板などをデジタルサイネージに変えることで、リアルタイムでフレキシブルな情報発信や共有が可能になります。

Point

アプリや機能を駆使して、生産性の向上を図ろう

コロナ禍でテレワークが進み、これまでの働き方を見直して新しく変更せざるを得なくなってきました。これを機に業務のデジタル化を進め、効率の良い進め方に変えていきましょう。Chromebook だからこそできる「1人1台端末」を活用し、組織全員でDXを推進していきましょう。

この章のまとめ

1人ひとりが Chromebook を活用し、DX を推進しよう

使いやすく高いセキュリティを誇る Chromebook の特長を活かすことで実現する「1人1台端末」。組織の1人ひとりが Chromebook の利用により働き方を変えていくことが、DXの最初の一歩です。Chromebook は、Google が提供するさまざまなクラウドサービスを利用できるほか、Android アプリも利用できます。そのため、各自のさまざまな工夫で Chromebook 活用の幅が広がります。組織の1人ひとりがDX推進の役割を担っていることを意識し、Chromebook を活用したDXを進めていきましょう。

業務のデジタル化でDXを推進

デジタル資産の共有やビデオ会議サービスを活用しながら業務を効率化し、新しい価値の創造を目指す

第3章 IT管理者から見たChromebook の利点とは

業種や業態を問わずテレワークが必須といえる時代になり、業務端末を使用する環境が大きく変化しました。この章では、業務端末を Chromebook に置き換えることで、IT管理者が得られるメリットを紹介します。Chromebook に関連して知っておくべき概念や機能、実際のセットアップ手順も合わせて説明します。

●この章の内容

❾ DXでIT管理者の作業負荷を軽減しよう……28
❿ Chromebook で全社環境を構築しよう……30
⓫ Chromebook でポリシーを設定するには……32
⓬ なぜ Chromebook はセキュアなのか……34
⓭ Chromebook の利用を開始するには……36

レッスン
9

DXでIT管理者の作業負荷を軽減しよう

Chromebook 導入のメリット

IT管理者にとって、Chromebook は導入メリットが多い端末です。これまで使っていたほかの端末とどう違うのか、具体的に見ていきます。

IT管理者の業務をDX化できる

レガシーシステムの保守運用による大きな負担や、コロナ禍で急速に進んだテレワーク環境の整備、業務のデジタル化などにより、IT管理者の業務負荷は高まっています。IT管理者の働き方を改革するためにも、Chromebook の導入を検討しましょう。主なメリットは以下の通りです。

・一括管理・運用が容易でセットアップの手間がかからない
・Chromebook 端末のポリシーやユーザーのポリシーは、管理画面（Google 管理コンソール）からすべてオンラインで設定可能
・業務環境や属性に応じたポリシーを設定可能
・Chrome OS 自体がセキュアに設計されており、オフィス以外の場所でも安心・安全に使用できる

HINT!

端末管理ほか多くの機能をクラウド上で完結できる

Chromebook（Chrome OS）は多くの機能をクラウド上で実装しており、ローカルに機能やデータを保存する必要はほとんどありません。端末の管理もすべてオンライン上で行えるので、DXに最適な端末・環境といえます。

HINT!

Chromebook でWindows アプリケーションを使うには

Chromebook では、Windowsのアプリケーションが動作しません。Chrome OS でも動作する環境に切り替えるか、Chromebook でWindows の環境を使用できるサービスを導入する必要があります。どうしてもWindows環境が必要になった場合は、Chrome OS に対応したVDI（仮想デスクトップ）のソリューションなどを検討しましょう。

HINT!

豊富な機種から選べるChromebook

Chromebook は国内外のメーカーからさまざまな端末が販売されているため、用途に合った機種を選定できます。処理速度や画面サイズの違いやタッチパネル機能の有無、そのほかユニークな機能も多く、新機種もどんどん増えています。

一括管理が容易で全社環境を構築しやすい

IT管理者が使用する Chromebook に、Chrome Enterprise Upgrade という管理用ライセンスを付与すると、Google 管理コンソール（管理画面）で社内の端末を一括管理できます。社員の端末に対してさまざまな設定・対応をオンラインで行えるようになり、IT管理者の負担が大きく軽減されます。

◆Google 管理コンソール
ユーザーや端末ごとのポリシー設定などをまとめて管理･運用できる

多様で柔軟なポリシー

Chromebook は、企業のポリシーに対応する設定や制限を柔軟に行えます。例えば、一部のユーザーに対して業務に不要な機能やアプリケーションを使用不可としたり、特定のサイトへのアクセスを制限したりも可能です。ほかにも、端末に対してWi-Fiの接続設定を反映させたり、ユーザーに対して業務に必要なブックマークをIT管理者が設定したりすることもできます。

Chromebook のセキュリティ対策

Chromebook は、OSなどのアップデートが自動的に行われるため、常に最新で最も安全なバージョンで動作します。また、複数の機能で情報を保護し、安全に端末が動作するように設計されています。例えば、端末の紛失時には遠隔操作でロックできるほか、故障時は代替機に自身のユーザーアカウントでログインするだけで、これまでと同じ環境で業務を行えます。

自分の端末が故障したときも、別の端末に自分の Google アカウントとパスワードでログインすれば、自分の端末と同様に使用できる

HINT!

起動速度やバッテリー駆動時間も大きなポイント

Chromebook はセキュアなだけではありません。起動が早いことや、バッテリーが長持ちすることも Chromebook の大きな特長です。OSが起動するまでのプロセスが少ないため起動にかかる時間が短く、OSアップデートがあっても10秒以内で起動するように作られています。また、常駐ソフトなども少ないため、省電力です。

HINT!

BCP対策って何？

「BCP」とは「Business Continuity Plan」の略で「事業継続計画」を意味しています。事業の継続が困難になるような緊急事態（地震や台風などの自然災害や新型ウイルスの流行など）が起こった際に、事業への影響を最小限にとどめつつ、中核となる事業が継続できるように、体制の整備や対応策の策定をしたり、緊急時を想定して訓練したりすることです。

Point

あえて業務端末を置き換える理由とは

業務環境を Chromebook に置き換えると、ほぼすべての業務がクラウドで完結します。自身の端末が故障したときも、ほかの端末でログインすればすぐに復旧でき、データをクラウド保存することでBCP対策にもなります。クラウドで完結できる環境はDX推進にとっても複合的なメリットが得られるため、ぜひ業務環境全体のクラウド化を検討しましょう。

レッスン
10 Chromebook で全社環境を構築しよう

Chromebook での環境構築

Chromebook は、業務端末の環境構築にかかる時間を大幅に短縮できます。ここでは、Chromebook を使った環境構築のイメージを説明します。

導入・管理のしやすさで1人1台端末に最適

Chromebook は、以下の理由で全社的な導入に適しています。

・多層防御でセキュリティが高い
・端末管理・運用が簡単
・コストパフォーマンスが良い

業務で使用するアプリケーションは、クラウドで完結できるものが多く、端末自体のスペックは必要最小限で十分です。そのため、シンプルな構成の Chromebook でも支障なく業務を行えます。また導入をより容易にする「ゼロタッチ登録」（35ページのHINT!を参照）という仕組みもあり、大量導入時のセットアップ作業もほぼ必要なく、簡単・スピーディに導入できます。

Chrome Enterprise Upgrade とは

Chrome Enterprise Upgrade は、管理者が Chromebook を管理・運用するために必要なライセンスです。1人1台端末として整備した Chromebook を、より安全に使用できるようになります。例えば、端末紛失時にはIT管理者が遠隔で端末を初期化し、悪意を持った第三者が端末自体を動作できないように設定するなど、以下の操作をすべて遠隔で行えるようになります。

・端末のデータを消去
・端末の使用を無効化（動作しないようにする）
・使用しているアカウントと使用時間の確認
・最終起動日時の確認
・OSバージョンの確認
・CPU、メモリー、ドライブの使用量の確認
・型番など端末情報の確認

HINT!

Chromebook のセットアップはオンラインで完結

Chromebook の設定はすべてオンラインで行えるため、基本的にはIT管理者が社員の端末を操作する必要はありません。初期設定もIT管理者が端末を触ることはなく、一般社員は簡単な操作をするだけで使い始められます（レッスン⓭を参照）。

HINT!

Chrome Enterprise Upgrade のライセンスとは

Chrome Enterprise Upgrade は、年間ライセンスと永久ライセンス（買い切り型）の2つの種類があります。Google 管理コンソールまたは Google の認定パートナーから購入できます。

▼Chrome OS デバイス向けの Upgrade を購入する
https://support.google.com/chrome/a/answer/7613771/

誰でも使える共用の端末としての利用

Chromebook は、自身の Google アカウントにログインすると、設定データがクラウドから端末に反映されます。そのため、複数名が利用する共有端末でも、自分専用の端末と同じように扱えます。またログアウト時にすべてのデータを消去するような設定も可能です。これらの機能を組み合わせると、以下のような運用のメリットがあります。

・時短勤務や時差勤務する人は共用端末を使用する運用とすることで、同時利用の端末数を減らせる
・外出する人がいる場合も、持ち出し用端末の数を最小限に抑えられる
・自分専用の端末を持たず、共用端末のみを利用する人でも、すぐに自身の業務環境にアクセスできるため、作業時間を短縮できる

HINT!

端末を使う人へのフォローも忘れずに

業務端末の環境構築には、経営陣・従業員を問わず、全社での理解や協力が必要不可欠です。業務環境のDX化がうまくいかない場合は、社員が Chromebook のメリットを理解できるよう、トレーニングなどの機会を設けましょう。Google が公開している展開手順なども参考になります。

▼Chrome Enterprise スタートガイド
https://support.google.com/chrome/a/answer/6149448/

HINT!

巻末付録の活用事例も参考に

本書では、53ページの巻末付録に業界別の活用事例を掲載しています。自社に近い業界の事例を参考にDXを推進するといいでしょう。

Point

業務端末の管理を手軽に

Chromebook ではすべての管理をオンラインで行うことができ、端末の初期化や設定がいつでも可能です。設定画面は誰が見ても分かりやすいメニューや画面構成になっているため、それほどITに詳しくない担当者でも、必要な設定や管理を行えます。

レッスン
11 Chromebook でポリシーを設定するには

Chromebook の端末制御

Chromebook は端末へのポリシー設定もクラウドで対応できます。このレッスンでは、どのようにポリシーを設定するのか、簡単に紹介します。

100以上の管理項目。組織ごとでのポリシー適用も

Chrome Enterprise Upgrade を用いた Chromebook の管理は、クラウド上の Google 管理コンソールで対応します。設定できるポリシーは100項目以上もあり、日々追加・更新が行われています。また、ユーザーの組織単位（OU）ごとの制御にも対応しています。設定したポリシーを適用するには、ユーザーが端末を使用するとき、支給されたアカウントでログインするだけです。詳しい手順は36ページを参照してください。

Chromebook で利用できるポリシー

Chromebook のポリシーは、大きく2つに分類されます。

●端末向け（デバイス）ポリシー

ログインするユーザーに関係なく、Chromebook に対して設定やポリシーを適用する場合に使用します。例えば、特定のユーザーのみをログインできるようにするほか、ゲストモードのブロックや自動更新などの設定が可能です。
なお端末向けポリシーを使用する際は、Chrome Enterprise Upgrade ライセンスが必要となり、Chromebook の初期設定時に「エンロール」と呼ばれる操作が必要です（35ページのHINT!を参照）。

●ユーザー向けポリシー

ユーザーが自身の Google アカウントにログインすると、過去にインストールした Chrome ブラウザの拡張機能やブックマークなどのデータと合わせて、管理者が設定したユーザー向けポリシーが適用されます。

HINT!

Chrome ブラウザで Google アカウントにログインする

ユーザー向けポリシーは、Chrome OS を搭載する端末以外で Chrome ブラウザを使用する場合も、ユーザーが Google アカウントにログインすれば適用されます。Chrome ブラウザの画面右上にあるプロフィールアイコンをクリックして、ログインの状態を確認しましょう。

HINT!

Chromebook のサポート期間

Chromebook の機種ごとに、Chrome OS のサポート期間が異なります。お使いの機種や検討中の機種がいつまで Chrome OS のサポートを受けられるかは、Google 管理コンソールの［Chrome 管理］から確認できます。

代表的なポリシーの設定について

デバイスポリシーとユーザーポリシーの代表的な項目を以下に紹介します。

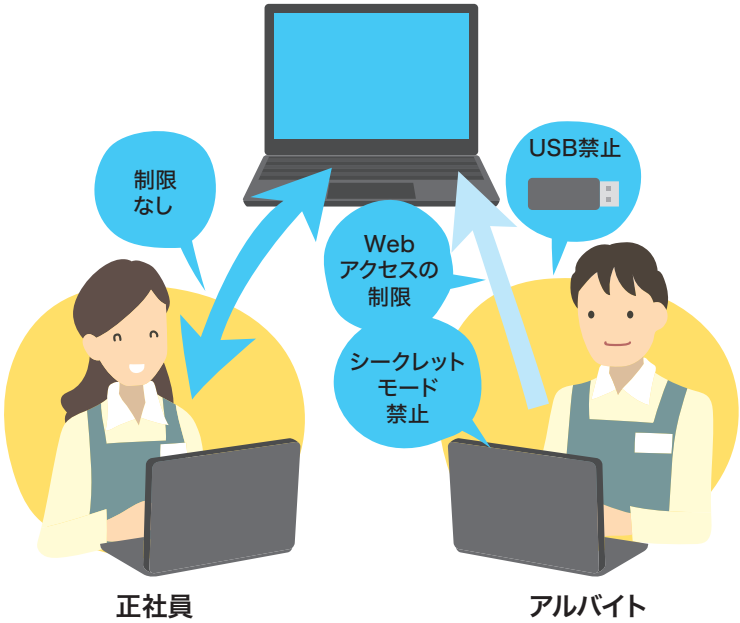
●デバイスポリシーで制御できる主な項目

項目名	内容
URL ブロック	特定の URL へのアクセスを禁止
ログアウト後に ローカルデータを消去	ログアウト後に設定を含むローカルデータをすべて削除
Wi-Fi ネットワークの追加	Wi-Fi ネットワーク設定を追加

●ユーザーポリシーで制御できる主な項目

項目名	内容
Chrome ブラウザへの ログインを必須	Chrome ブラウザでログインしないままでの使用の禁止
外部ストレージの禁止	USB メモリーなどの使用
管理者によるブックマーク	管理者がブックマークを追加
アプリと拡張機能の配布	Chrome ブラウザで使用するアプリと拡張機能の許可／禁止リストの設定

●ポリシー設定の一例



HINT!

**ユーザーや組織単位での
ポリシー設定について**

営業部や人事部、アルバイトなど、部署や雇用形態に合わせてポリシーを変えたい場合、Google 管理コンソールで組織を設定し、ポリシーを分けて運用します。
Google 管理コンソールで組織部門を作成して異なるポリシーを設定することで、ユーザーや端末によって設定を変更できます。詳細は販売代理店などに相談するか、Google のサポートページなどを確認してください。

組織を作成後、組織ごとにポリシーを設定する

Point

**クラウドで柔軟な
ポリシー設定を活用しよう**

Chromebook には、端末向けポリシーとユーザー向けのポリシーがあり、用途に合わせた柔軟な設定をオンラインで設定できます。すでに従業員に端末を配布した後でも、いつでも設定の変更が可能なので、新たなセキュリティリスクへも素早く対処できます。

レッスン
12 なぜ Chromebook はセキュアなのか

Chromebook のセキュリティ

テレワークが普及し、自宅で使用する端末のセキュリティが課題となっています。このレッスンでは Chromebook がセキュアといわれる理由を紹介します。

Chromebook のセキュリティ機能

Chromebook は多層防御を原則としており、複数の層で情報を保護し、安全に端末が動作するように設計されています。セキュリティ上のポイントは以下の通りです。

・Chrome OS は自動で常に最新の状態に更新される
・サンドボックス：ウイルスに感染したWebページを開いても、ほかの動作は影響されない
・確認付きブート：万が一、サンドボックスをすり抜けても毎回の起動時にセルフチェックを実施
・ダウンロードフォルダやCookieなど、ローカルにデータが残る場合は、データを暗号化
・動作に影響が出た場合もすぐにOSを復元

このほかにも、Chrome ブラウザは、フィッシングサイトなど危険性のあるサイトにアクセスした際に通知し、引き続き閲覧するかどうかを確認する画面を表示したり、HTTPSでの接続をすぐに確認できるアイコンが常に画面上に表示されていたりします。さらに2段階認証を使用してログインすることで、万が一パスワードが漏えいしても、アカウントへの不正ログインを防ぐことができ、業務データなどをより安全に取り扱えます。

HINT!

Chromebook の セットアップについて

Chromebook は、セットアップ作業をすべてオンライン上で操作できるため、基本的にはIT管理者が各端末を直接操作する必要はありません。ただし、次ページに示した2のユーザーによるエンロール作業については、ユーザーが手順を飛ばす恐れがあるためIT管理者がユーザーの端末上で行う場合もあります。

セキュリティポリシーを設定するまでの流れ

Chromebook の一般的なセットアップの流れは以下の通りです。IT管理者が設定したセキュリティポリシーを端末に適用させることで、Chromebook を安全に業務で使用できるようになります。

※1と2がエンロール作業

HINT!

ゼロタッチ登録とは

Chromebook をセットアップする際、企業の端末登録（エンロール）を手作業で実施するほかに、ゼロタッチ登録という方法で、端末を直接操作せずに企業用の端末として登録ができます。IT管理者がゼロタッチ登録のためのトークンを発行し、Chromebook の販売元にトークンを渡すと、Chromebook の電源をオンにしてインターネットに接続するだけで、企業用の端末として登録されます。ただし、この方法はゼロタッチ登録に対応した Chromebook 端末が必要なので、詳しくは販売代理店などへ問い合わせるか、Google のサポートページを確認してください。

▼ゼロタッチ登録

https://support.google.com/chrome/a/answer/10130175/

Point

Chromebook の セキュリティ機能は万全

Chromebook は、多層防御を原則とした高いセキュリティと、IT管理者が設定するポリシーの適用で、より安全で効率のよい作業環境を提供できます。DXを推進するうえでは見逃せないIT管理者の負担軽減についても、業務のクラウド化で無駄な時間を削減します。運用・管理のための時間の代わりに、生産性を上げる業務に時間を使えるようになるでしょう。

レッスン

13 Chromebook の利用を開始するには

Chromebook のセットアップ

Chromebook のセットアップ作業はすべてオンラインで行うことができます。このレッスンでは、Chromebook のセットアップ手順を説明します。

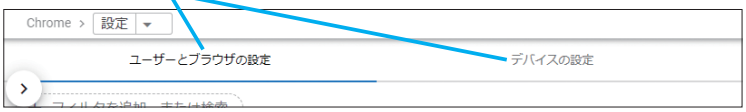
【IT管理者】ポリシーを設定する

1 Google 管理コンソールのホームページを開く

IT管理者のアカウントで Google 管理コンソールにアクセスする

画面左のメニューバーで［デバイス］-［Chrome］-［設定］の順にクリックする

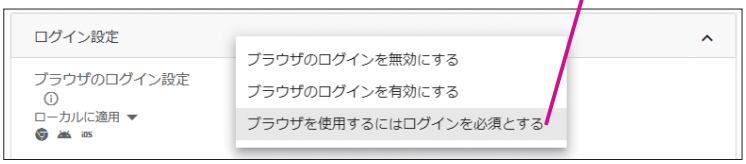
［ユーザーとブラウザの設定］と［デバイスの設定］をクリックして設定を開始する



2 各設定を変更する

ここでは［ブラウザのログイン設定］を設定する

1 ［ブラウザを使用するにはログインを必須とする］を選択



続けて［ユーザーセッションの最大の長さ］を設定する

2 タイムアウトまでの時間を入力

3 設定の変更を保存する

1 画面上部の［保存］をクリック

HINT!

管理者権限が必要

管理コンソールにアクセスするためには、管理者権限が必要です。管理者権限には、すべての設定や管理ができる「特権管理者」をはじめ、役割に応じて、特定の機能やサービスを設定・管理できる管理者権限があります。

HINT!

管理者は複数名用意する

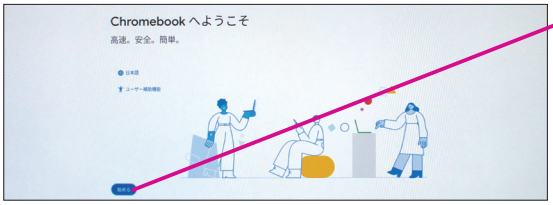
事業継続性やセキュリティの観点から、管理者は複数名任命して運用しましょう。役割に応じて任命したり、特権管理者も1名ではなく、できれば2名は任命しておきましょう。緊急時に特権管理者の1人が対応できない場合に、もう1人の特権管理者が対応できます。

【ユーザー】企業の端末として登録する

1 セットアップを開始する

1 Chromebook の電源を入れる

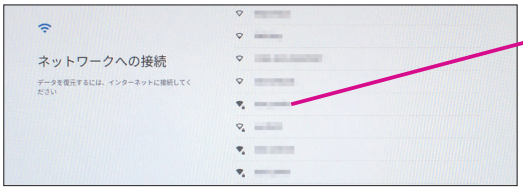
[Chromebook へようこそ] 画面が表示された



2 [始める] をクリック

2 アクセスポイントを選択する

無線LANに接続してインターネットを使えるようにする



1 アクセスポイントをクリック

2 [次へ] をクリック

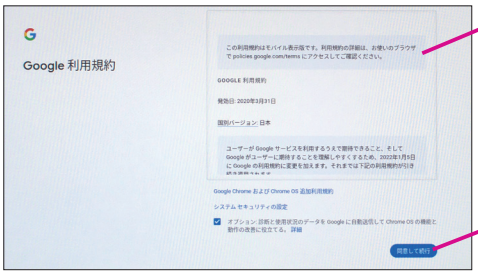
パスワード(セキュリティキー)の入力画面が表示された

3 Wi-Fiのパスワードを入力

4 [接続] をクリック

3 利用規約に同意する

[Google 利用規約] の画面が表示された



1 規約を確認

2 [同意して続行] をクリック

HINT!

管理者の役割とは

管理者の役割として、一般的な運用を想定したいくつかの管理者権限が事前に用意されています。ユーザーアカウントに関する管理・設定操作ができる「ユーザー管理者」や、ユーザーアカウントのパスワードの再設定をしたり、アカウントの情報を確認できる「ヘルプデスク管理者」が用意されており、管理業務をすぐに割り当てることができます。

HINT!

独自の管理者権限も作成できる

Google が用意した管理者権限のほかに、組織の運用に合わせた管理者権限を特権管理者が作成し、ユーザーに割り当てることができます。

次のページに続く

4 使用者を設定する

使用者の選択画面が表示された

1 [あなた]をクリック

2 [次へ]をクリック

5 ユーザーの企業登録を開始する

[「Chromebook」へのログイン]の画面が表示された

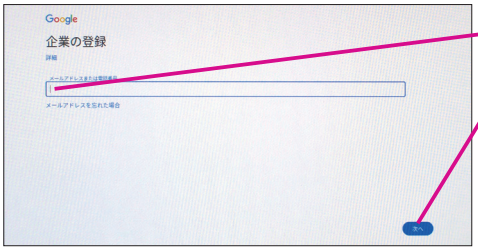
1 [その他の設定]をクリック

2 [企業の登録]を選択

3 [次へ]をクリック

6 追加するユーザーの情報を入力する

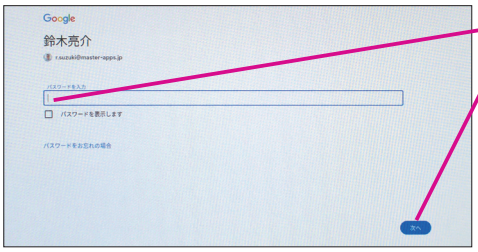
利用ユーザーの Google アカウントを入力する



1 メールアドレスを入力

2 [次へ]をクリック

パスワードの入力画面が表示された



3 パスワードを入力

4 [次へ]をクリック

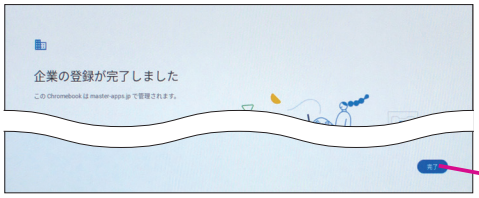
HINT! 管理者の役割によって表示されるメニューが異なる

割り当てられた管理者の役割や権限に応じて、管理コンソールで表示されるメニューや操作できる項目・範囲が変わります。

HINT! 複数の役割を割り当てられる

1人のユーザーに対して、管理者の役割を複数割り当てることができます。ユーザーは、割り当てられた複数の役割に含まれる管理者権限すべてが付与され、その役割に応じた対応ができるようになります。

7 企業の端末として登録できた



企業の登録が完了した

1 [完了]をクリック

【ユーザー】Google アカウントでログインする

1 Google アカウントにログインする

[[Chromebook]へのログイン]の画面が表示された

1 管理ドメインが表示されていることを確認

2 ユーザーのメールアドレスを入力

[次へ]をクリックした後、パスワードを入力してログインする

2 Chromebook の同期を設定する

Chrombook の同期設定の画面が表示された

1 [同意して続行] をクリック

3 Google アカウントでログインできた

管理された端末として登録されたことを確認する

HINT!

管理者の権限変更は特権管理者のみ

管理者の役割の新規作成やユーザーへの割り当て、それらの管理者権限の変更などは、特権管理者のみが実施できます。

HINT!

管理者の操作はすべてログが残る

管理者が管理コンソールで行った作業は、管理コンソールの監査ログにすべて残り、後で確認できます。監査ログは、期間や操作内容、操作したユーザー名などでフィルターを実行して確認が可能です。

Point

オンライン上で設定すれば大規模な導入もスムーズ

Chromebook のセットアップはこのレッスンで紹介した手順に沿ってオンラインで進められます。設定は自動的に端末へ反映されるため、1台ずつIT管理者の手元で設定する必要はありません。設定変更もオンラインで対応できるため、管理の手間も減らせます。

テクニック おすすめのデバイス設定とは

Google 管理コンソールにログインして、左側のメニューバーから［デバイス］-［Chrome］-［設定］-［デバイス］の順にクリックした後、以下に示す設定項目まで画面をスクロールします。

●ログイン設定

・［ログインの制限］：指定したドメイン以外での Chromebook へのログインを禁止し、個人アカウントなどでログインできないように設定する

1 ［ログインをリスト内のユーザーのみに制限する］を選択

2 「*@○○(自社ドメイン)」と入力

・［ドメインのオートコンプリート］：Chromebook のログイン画面で、メールアドレス欄に組織のドメインをあらかじめ表示する

1 ［ログイン時のオートコンプリート機能に、以下のドメイン名を使用する］を選択

2 自社ドメインを入力

・［ゲストモード］：ゲストモードの利用を禁止する。Google アカウントを持っていない人がログインできないように設定する。設定方法は、［ゲストモードを無効にする］を選択する

・［ユーザーデータ］：ユーザーがログアウトした後に、ローカルのユーザー情報などをすべて消去する。設定方法は、［すべてのローカルユーザーデータを消去］を選択する

●登録とアクセス

・［自動的に再登録］：Chromebook の初期化時、再起動した際に強制的に企業の管理下とする。設定方法は、［ワイプ後にデバイスを自動再登録］を選択する

●その他の設定

・［ディスク容量が少ない場合の通知］：ドライブの容量が少ない場合の通知を有効または無効にする。設定方法は、［ディスク容量が少ない場合に通知を表示する］など、適切な項目を選択する

テクニック ユーザーの詳細設定方法を知ろう

Google 管理コンソールにログインして、左側のメニューバーから［デバイス］-［Chrome］-［設定］-［ユーザーとブラウザの設定］の順にクリックした後、以下に示す設定項目まで画面をスクロールします。

●登録の管理

・［デバイスの登録］：Chromebook を登録する際、ユーザーが所属している組織部門に Chromebook 端末を配置する。組織部門に適用済みの設定が適用される。設定方法は、［Chrome デバイスをユーザーの組織内に配置する］を選択する

●ユーザーエクスペリエンス

・［マルチログインアクセス］：アカウントの切り替え機能を制限する。設定方法は、［この組織のユーザーにマルチログインアクセスを許可しない］を選択する

●ハードウェア

・［外部ストレージデバイス］：USBメモリーや外付けドライブなど、外部ドライブのマウントを制限する。設定方法は、［外部ストレージデバイスを許可しない］を選択する

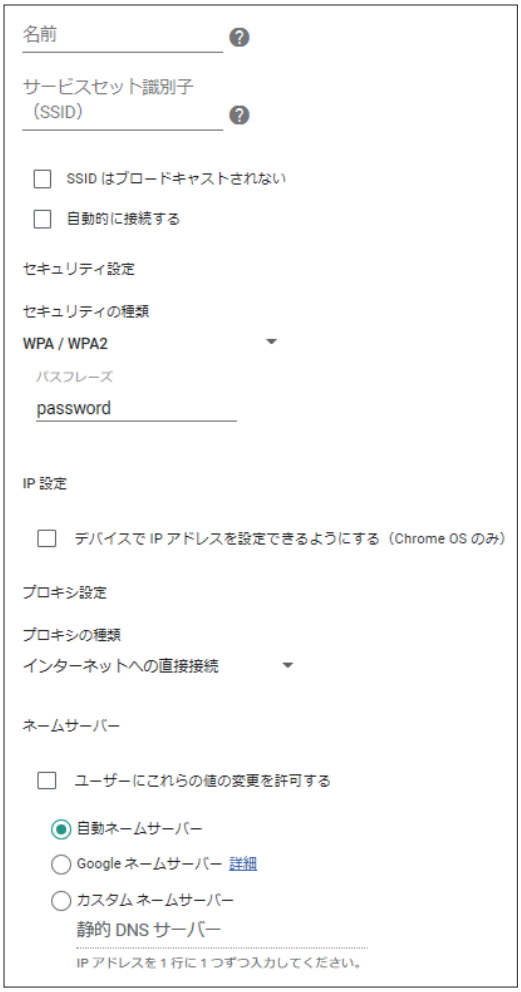
テクニック Wi-Fiやプリンターの設定をするには

●Wi-Fiの設定

Google 管理コンソールにログインした後、左側のメニューバーから［デバイス］-［ネットワーク］の順にクリックし、［Wi-Fi］の項目を表示します。

・［Wi-Fi］：管理者によりWi-Fiネットワークの接続設定を追加する。以下の画面を参考に、必要な情報を入力する

画面を参考に、アクセスポイント名（SSID）などを入力する



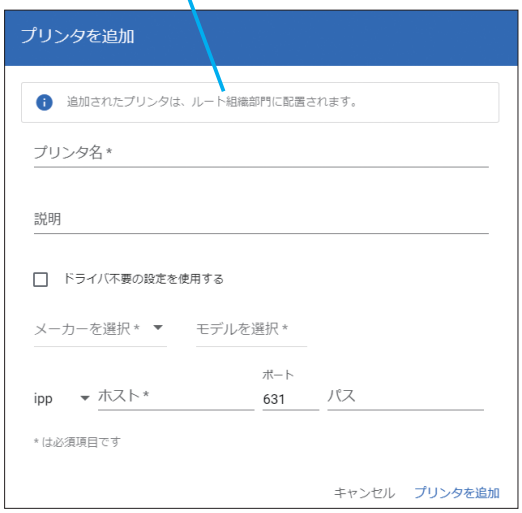
●プリンターの設定

Google 管理コンソールにログインした後、左側のメニューバーから［デバイス］-［Chrome］の順にクリックし、［プリンタ］の項目を表示します。

・［プリンタを追加］：画面右下の［+］をクリックし、プリンターの接続設定を追加する。以下の画面を参考に、必要な情報を入力する（接続設定は各プリンターの手順に従う）

画面を参考に、プリンター名などを入力する

組織部門にプリンターを追加した場合は、組織名が表示される



この章のまとめ

Chromebook でクラウド移行、実のある DX を

この章では業務端末を Chromebook に置き換えると、IT管理者としてどのような業務が必要かを紹介しました。
端末の入れ替えになると、何台もの端末をオフィスに並べ、時間のかかる初期設定をしているIT管理者も多いと思います。これらが Chromebook ではクラウドで完結するため、IT管理者の作業負荷が軽減されます。
業務端末の種類が変わるのでなく、端末の管理業務が変われば、本来の業務において生産性を上げられます。またBCP対策や端末の設定・管理費のコストダウン、セキュリティ対策など同時に複数の利点も得られます。
Chromebook で業務のクラウド化を進め、実のあるDXを実現していきましょう。

セキュリティ機能も充実

クラウド上で運用・管理ができる Chromebook は、パソコンを使い慣れていない人も使いやすく、そのぶん IT 管理者の手間も減らせる

第4章 マネジメント層のための Chromebook × DX

ここまで、Chromebook の利便性や展開のしやすさ、シンプルで簡単な管理方法について紹介してきました。この章では Chromebook を導入した企業が、組織としてどのようなTransformation（変革）を実現し得るのか、実例を交えながら紹介します。特に組織のマネジメント層が、Chromebook を活用してDXをどのようにリードするべきかを考える参考としてください。

●この章の内容

⓮ 現場とオフィスを接続するメリットとは……44
⓯ 現場の的確な判断を実現するには……46
⓰ 多様な働き方を実現するには……48
⓱ 新たな企業価値を創造し進化するDXとは……50

レッスン
14 現場とオフィスを接続するメリットとは

データ活用に向けた土台づくり

DXの推進で、現場を含めた組織の全員がデータにアクセスできるようになります。データの有効利用に向けた体制づくりと、その事例を紹介します。

現場がデータの入口となる

従来、DXの主な対象者はオフィスで働く社員（オフィスワーカー）でした。しかし今、製造業や建設業の作業員、小売業や飲食業の従業員、農林水産業の従事者、医療従事者など、現場の最前線で働くフロントラインワーカーにもDXの波が押し寄せています。これからはフロントラインワーカーを含めた組織全員がネットワークでつながり、データにアクセスできることが重要視されています。

例えば、フロントラインワーカーがデバイスを持ち直接データを入力すると、従来は得られなかったさまざまな情報が集まります。それらの情報に基づいた、新たな分析や戦略立案が可能になります。さらに、組織全体で情報を共有すれば現場での意思決定の精度が上がり、現場同士が直接つながることで、横の展開もスピーディに行えるでしょう。

HINT!

フロントラインワーカーの70%がテクノロジーを求めている

米国のベンチャーキャピタルの調査によれば、フロントラインワーカーのうち70%が「使える（ソフトウェア）テクノロジーが増えれば、もっと仕事が良くなる」と答えています。フロントラインワーカーがテクノロジーの導入によって最も恩恵を受けると感じているのは、コミュニケーション、業務、物流、オンボーディング、トレーニングなどの分野でした（Emergence Capital『The State of Technology for the Deskless Workforce』2020年）。

Chromebook で現場をコネクトしたケース

フロントラインワーカーを含めた組織全員が Chromebook を活用し、業務の効率化が進んだ例を紹介します。

●情報管理・コミュニケーションを改善

英国のヘルスケア企業Good Care Groupは、Chromebook と Google Workspace の導入によって、在宅ケアワーカーによるクライアントの情報管理を効率化し、マネージャーとのコミュニケーションを改善しました。パソコンの操作経験がないケアワーカーでも簡単に操作できるよう、タッチ機能が付いた Chromebook を採用しました。 出典：chromeenterprise.google

忙しい現場でも、タッチ操作で素早くデータが入力できる

●現場トレーニングを効率化

米国発祥の中華料理レストランチェーンPanda Restaurant Groupでは、フロントラインワーカーに向けた調理・接客のオンライントレーニングのため、400台の Chromebook を導入しました。以前は店舗に業務端末が1台しかなく、発注業務などが重なってトレーニングが行えないといった課題がありましたが、Chromebook の導入によって解決できました。

出典：cloud.google.com

ほかの業務と並行してオンライントレーニングを進められるようになる

HINT!

フロントラインワーカーの意思決定が企業の成功のカギ

ハーバード・ビジネス・レビュー社の調査では、企業経営者のうち87%が「フロントラインワーカーがその場で重要な意思決定を下せるようになれば、組織はより成功する」と考えていると分かりました。同時に86%が「フロントラインワーカーが適切な意思決定を行うには、テクノロジーを活用したより良い洞察が必要だ」とも答えています（Harvard Business Review Analytic Services『The New Decision Makers』2020年）。

HINT!

Google Workspace Frontline とは

フロントラインワーカー向けのプランである Google Workspace Frontline は、Gmail、Google カレンダー、Google Meet、Google Chat、Google ドライブ、Google ドキュメント、Google スプレッドシートといった、現場作業に必要な機能のみに絞り込んだサービスが利用できます。通常の Google Workspace よりもリーズナブルです。

Point

業務の効率化には現場とオフィスの連携強化が必須

フロントラインワーカー（現場）を含めた組織全員がデータにアクセスできるような体制づくりが求められています。現場がデータの入口となり、さまざまな情報が収集・共有されることで、組織横断的な分析や戦略立案も可能になります。Chromebook は導入・運用が容易なので、現場でも大いに活躍します。

レッスン
15 現場の的確な判断を実現するには

現場でのデータ活用の効果

現場がデータにアクセス・利用できるようになると、素早く正確な意思決定が可能になります。実際の例を挙げて、そのメリットを紹介します。

判断の速さは組織の対応力向上につながる

組織の全員がデバイスを持つことで、場所を選ばず必要な情報に素早くアクセスできます。現場での判断に必要な情報が手に入りやすくなり、スムーズな現場対応が可能です。緊急時などスピーディな判断が求められる際にも大きな力を発揮します。

現場とオフィスが同じデータを共有・活用することで、現場での的確な意思決定が可能になる

HINT!

緊急時にはスピーディな現場判断が必要とされる

感染症流行時の医療現場など、緊急時には現場の素早い判断が求められます。現場でのスピーディで正確な意思決定を実現するには、現場への情報提供が必要不可欠です。また、ある現場で作った成功モデルをすぐに横展開できるような体制づくりも重要です。

Chromebook や Google サービスで現場を支援

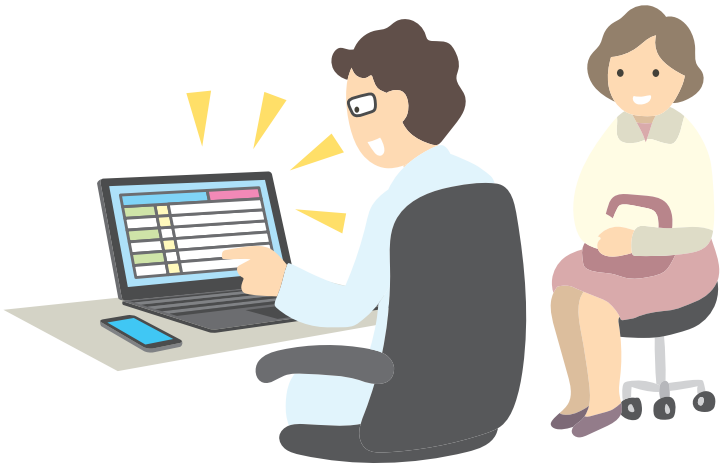
Chromebook や Google のサービスは、シンプルなUIと、複雑な操作を行わなくても簡単に扱えるサービスによって、現場での意思決定を支援します。
例えば Google Workspace のコネクテッドシートを使えば、高度な専門スキルがなくてもビックデータ分析を行えます。通常業務で使用する Google スプレッドシートと同じ画面表示で使いやすく、ビッグデータの集計や分析の結果も簡単に共有できます。

Chromebook が現場の意思決定を促したケース

インドの眼科医療センターグループであるDr. Agarwal's Eye Hospitalでは、Chromebook と Google Workspace を導入し、医師のスムーズな診察を可能にしました。それまでは高度な医療技術やノウハウにパソコンやシステムが追い付かずにすぐクラッシュが起きたり、紙の書類が共有しづらかったりしましたが、その後のDX化によって患者の診断や受診履歴、治療に必要なデータをデジタルデータとして管理。患者データの入力時間も短縮され、患者の診察により多くの時間を割けるようになりました。

出典：chromeenterprise.google

以前はデータ入力や紙の書類の整理など、診察以外の業務に時間がかかった



患者の必要なデータをすぐに確認できるため、診察そのものに時間をかけられるようになる

HINT!

コネクテッドシートとは

Google スプレッドシートから BigQuery 上のビッグデータにアクセスし、グラフやピボットテーブルを作成できる機能です。BigQuery は、ビッグデータを高速で解析できる Google Cloud のサービスです。

HINT!

Google マップを利用した出店戦略とは

日本生命では、Google マップを活用し、地図上に地域の人口統計や競合他社の情報などをグラフィカルに表示する出店戦略策定ツールを導入しました。データが分かりやすく見られるため、現場でも戦略が立てやすくなり、本部・現場が一体となって戦略を策定する方針へと転換しています。 出典：cloud.google.com

Point

現場の対応力アップが企業の成功に直結

現場がその場で意思決定を下せるようになることが、企業の成功につながります。そのためには判断に必要な情報にすぐにアクセス・活用できる仕組みが必要です。Chromebook や Google のサービスを活用すれば、データの収集だけでなく閲覧・分析も容易に。現場での意思決定をサポートできます。

レッスン
16 多様な働き方を実現するには

テレワークとクラウド活用

場所・時間の制約を取り払った自由な働き方を支援するには、1人1台端末が必須です。セキュリティ対策が万全な Chromebook が活躍します。

柔軟な働き方にはDXの推進が必須

コロナ禍でテレワークが一気に進み、テレワーク環境の有無で就職先・転職先を選ぶ人も増えています。優秀な人材を集め、活躍してもらうためには、組織がさまざまな働き方を認め、いつでもどこでも仕事ができる環境を整えなければなりません。
クラウドサービスを活用した同時並行型の業務方法や、テレワークのように時間や場所の制約を超えるための仕組みを整えていきましょう。

1人1台端末やデジタルデータの共有により、初めてテレワークが実現できる

HINT!

テレワーク環境の整備が企業の魅力を向上させる

パーソル総合研究所の調査によると、テレワーク実施者のうち、テレワークを継続したいと答えた人は78.6%でした（パーソル総合研究所『第五回・新型コロナウイルス対策によるテレワークへの影響に関する緊急調査』2021年）。また、転職サイト登録者への調査では36%が「テレワークの有無が転職先選びに影響する」と回答しています（エン・ジャパン『コロナ禍でのテレワーク調査』2021年）。テレワーク環境が、働く人にとっての魅力の1つです。

Chromebook はセキュリティ対策も万全

Chromebook では最新のセキュリティに自動でアップデートできたり、所属や業務内容に合わせてオンライン上で制限をかけたりと、高いセキュリティ機能が組み込まれています。
Google Workspace のコンテキスト アウェア アクセスという機能を利用すれば、ユーザー IDやコンテキスト（場所、セキュリティ状況、IPなど）に応じてアクセス権限を詳細に設定できます。また Google はゼロトラストモデル（企業内部のネットワークを安全と考えず、すべてのアクセスを信頼しないセキュリティ対策モデル）のセキュリティサービスも提供しています。

Chromebook と Google サービスを組み合わせて強固なセキュリティを確立する

Chromebook が柔軟な組織を実現したケース

●端末の素早い整備でテレワークを短期間で実現

パンメーカーの敷島製パンは、Chromebook および Google Workspace を導入しています。コロナ禍をきっかけに、急遽300台の Chromebook を追加導入し、テレワークを拡大しました。キッティングに時間がかからないため、発注からわずか1週間で対象社員に端末を支給できました。 出典：cloud.google.com

ポリシーなどをオンラインで設定できるのも素早い端末整備ができた理由

●セキュリティを向上しつつ働き方を変革

家電量販店を展開するノジマは、社内や店舗のパソコンを徐々に Chromebook に変更。従来、パソコンの社外持ち出しはできませんでしたが、セキュリティの担保された Chromebook を採用することで外出先にも持ち出せるようになりました。盗難・紛失時でもリモートワイプで情報漏えいを防げるのも決め手の1つでした。 出典：chromeenterprise.google

HINT!

IT管理者に余分な負荷がかからずセキュリティ対策ができる

Chromebook では、初期設定やOSの自動更新、ポリシー設定などを Google 管理コンソール（管理画面）で一括管理できます。IT管理者への作業負荷もそれほどかからず、整備後の運用もスムーズです。Chromebook と Google Workspace のセキュリティについてはレッスン⓬も参照してください。

Point

セキュリティ対策をしつつ、柔軟な組織に変革する

多様な人材が活躍できる組織では、クラウドサービスを活用したり、テレワークのように時間や場所の制約を超える仕組みを取り入れたりと、働き方を選べるようにしています。Chromebook では、セキュリティを担保しながら、このような仕組みづくりを進められます。

レッスン
17 新たな企業価値を創造し進化するDXとは

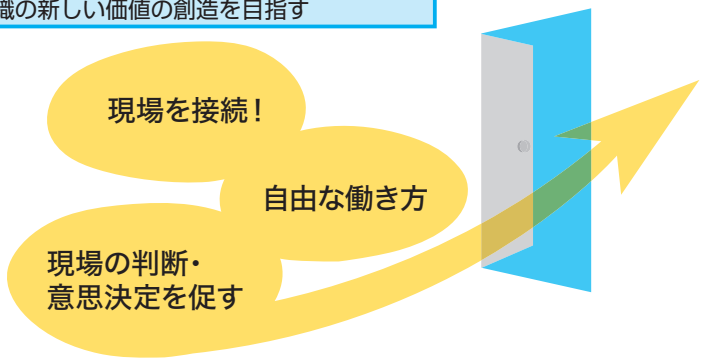
創造力発揮の仕組み

現場との連携、データ活用、働き方改革により、組織が創造力を発揮できる下地が完成します。競争優位性を築くための仕組みを作りましょう。

新たな事業や価値を作るのがDXの最終目標

現場のデータが安全に集約されて、柔軟な組織の中でコミュニケーションが生まれ、組織横断的に創造性豊かなアイデアを生み出せるようになる。このことが組織の競争優位性を築き、新しい事業へとつながります。DXによってさまざまな制約を取り払い、創造力を発揮できる仕組みを整えることは、企業・組織にさまざまなメリットをもたらします。

マネジメント層は、DXを手段として使い、組織の新しい価値の創造を目指す



コミュニケーション強化で創造力を養う

新しい価値を創造するには、組織内の活発なコミュニケーションが重要です。Google Workspace のサービスにある Google Currents は、社内SNSとして利用できます。従来、情報はボトムアップで報告され、トップダウンで伝達される一方的なものでした。Google Currents では、部署やプロジェクトを超えて、従業員同士が自由に情報やノウハウを共有できるので、思わぬところから新しい事業が生まれるかもしれません。

部署の垣根を超えて、組織内で情報を共有できる

HINT!

先の読めないVUCAの時代

VUCA（ブーカ）とは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という4つの言葉の頭文字をとったものです。先を見通しにくくするさまざまな不安定要素を表します。現代はVUCAの時代であり、今までのビジネスモデルや正攻法が通用しなくなっています。素早い意思決定を繰り返しながら変化に対応していくため、より柔軟なビジネス、アイデア、組織、働き方などが求められています。

Chromebook で創造力発揮の下地を作ったケース

●全社員のコラボレーションが可能に

仏国の多国籍総合環境サービス企業Veoriaは、全世界約18万人の従業員に Chromebook を配布し、Google Workspace を導入。使用ツールが統一されたため、世界中の従業員が容易にコラボレーションできるようになりました。Google Meet の活用で顔を見ながらのコミュニケーションが活発になるなど、全社員が真の意味でつながっています。 出典：www.blog.google

時間や場所を問わず、多彩なアイデアが世界中で共有されるようになる

●Google のサービスで組織横断的に情報を共有

損害保険会社の損保ジャパンでは、Google Workspace の Google Currents を活用し、500以上の拠点間の連携を実現しました。例えば、ある拠点での取り組みを全社の Google ドライブにアップロードして、全社員が参考にしています。情報共有だけでなく、お互いにブラッシュアップすることで、顧客により良いサービスを提供できるようになりました。

出典：cloud.google.com

拠点をまたいでサービスのブラッシュアップができる

HINT!

組織横断的な文化が創造力、利益につながる

「創造性」が企業に利益をもたらす可能性が高いことを、マッキンゼー・アンド・カンパニーが調査で明らかにしています。同調査によれば、創造性が高い上位25%の企業のうち、4分の3以上が、「自分の組織には強力な部門横断的文化がある」と回答しました(McKinsey & Company『Creativity's bottom line: How winning companies turn creativity into business value and growth』2017年)。組織横断的な文化が創造力の下地となり、企業の利益にもつながるのです。

Point

新しい事業や競争優位性をDXで創り出す

人の創造力が、新しい事業やアイデアを生み出します。DX計画に基づいて Chromebook や Google のサービスを活用して、創造力を発揮できる仕組みを整備することは、組織の持続的な成長につながります。

この章のまとめ

Chromebook で組織を変革し、創造力を発揮しよう

この章ではマネジメント層がどのように組織・企業のDXをリードするべきなのか、ゴールイメージを実例とともにいくつか紹介しました。「現場を接続」し、組織全員がデータにアクセスできるようにすること。そしてデータを活用し「現場の判断・意思決定を促す」こと。この2つの実現には1人1台端末として簡単に使える Chromebook の特長が役立ちます。テレワークやクラウドを活用して「自由な働き方を実現する」ことも、Chromebook と Google Workspace でセキュアに実施できます。組織・企業にとってDXの真の意義は、これら3つの要素を活かして創造力を発揮できる仕組みを育て、企業の競争優位性や事業につなげることにあります。ぜひご紹介した事例を参考に、Chromebook を創造的に活用していただければと思います。

デジタル資産の共有・活用

操作しやすく、管理しやすい Chromebook の利用で、データ入力から分析、管理までを効率よく進め、新しい価値を創り出す

付 録

業界別 Chromebook でできるDX推進事例集

ここからは「製造業」「建設・不動産業」「小売業」「飲食業」の業界別に分け、Chromebook の活用事例を紹介します。業務や組織の中でどのように Chromebook を活用し、DXを進めていけるのか。具体的にイメージしながら読み進め、参考としてください。

●この章の内容

付録1　業務におけるメリットを再確認しよう……54
付録2　製造業のDX事例……56
付録3　建設・不動産業でのDX事例……58
付録4　小売業でのDX事例……60
付録5　飲食業でのDX事例……62

1 業務におけるメリットを再確認しよう

業務における4つのメリット

DXの最適なパートナー、Chromebook の特長をおさらいしましょう。また実際にどのようなシーンで Chromebook を活用できるのかも紹介します。

DXに最適な Chromebook の特長

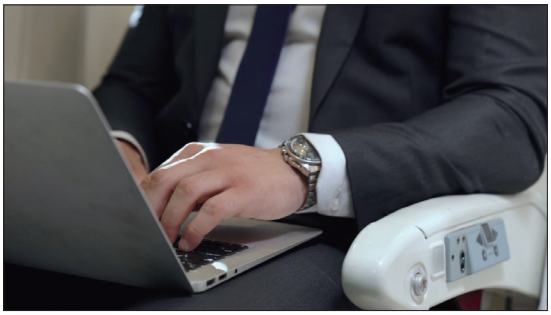
本書ではさまざまな角度からDXについて考え、それぞれのシーンでどのように Chromebook を活かせるのかを見てきました。DXにおける Chromebook のメリットは大きく4つに分かれます（レッスン❷参照）。付録では、業界別の事例を挙げ、DXによってもたらされたメリットを紹介します。

●Chromebook の特長

Chromebook 活用の4大シーン

最初にどのような業界でも参考にできる、Chromebook が特に活躍する4大シーンを紹介します。次ページから紹介する業界別の具体的な活用例と合わせて参考にしましょう。自組織の業務におけるChromebook の利用シーンをイメージしながら読み進め、実際に Chromebook を活用しDXを進めていきましょう。

●シーン①　現場の従業員への端末支給

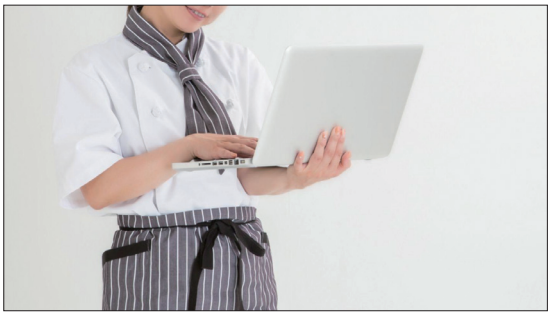


Chromebook はセキュリティが高く、一括管理が容易なため、管理・運用にかかるコストを抑えられます。そのため、今まで1人1台端末を支給できなかった現場などにも、導入が可能になります。

●シーン②　アナログ資源のデジタル化・クラウド化

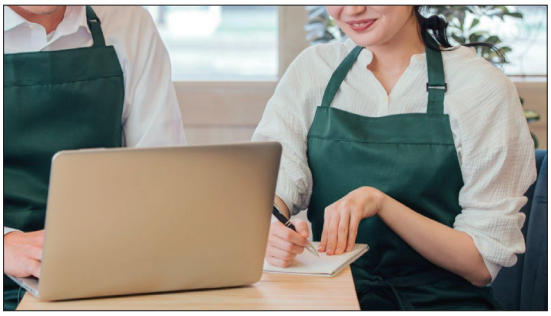
Chromebook および Google のサービスを活用すれば、書類や図面などのアナログ資源を簡単にデジタル化・クラウド化できます。クラウドのファイル保管サービスである Google ドライブにファイルを保存すれば、いつでもどこからでも閲覧・編集できます。

●シーン③　遠隔地コミュニケーション



Google Workspace にあるビデオ会議ツールGoogle Meet を使えば、ビデオ会議も簡単に開始できます。ほかにも、チャットツールのGoogle Chat や組織内SNSとして利用できるGoogle Currents といったコミュニケーションツールも豊富です。拠点間やテレワーク時の就業場所、外出先、作業現場がつながることで、コミュニケーションが活性化されるでしょう。

●シーン④　ナレッジの共有



各種コミュニケーションツールや Google ドライブを活用すれば、ナレッジの共有も容易です。エース社員や技術者のスキルを動画で保存しておけば、書面や口頭では理解しづらい内容も共有できます。

製造業のDX事例

製造業での Chromebook 活用

製造業において、Chromebook はどのように活用できるのでしょうか。ここでは、実際の企業のケースをBefore ／ Afterで紹介します。

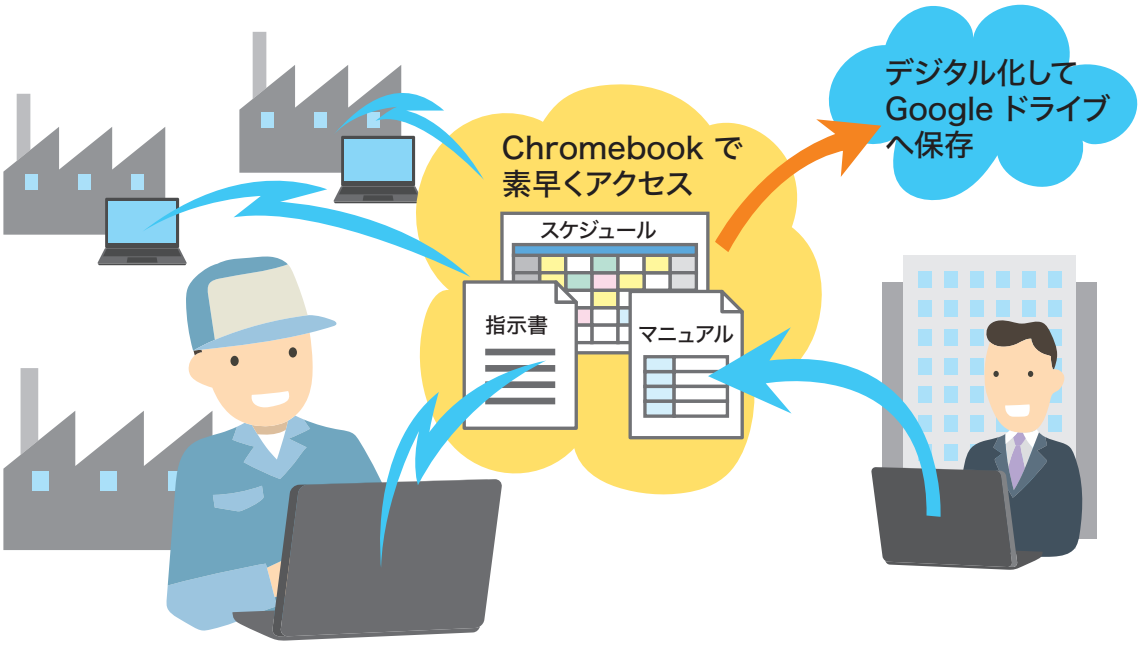
【ケース1】紙資料のデジタル化で検索速度がアップ

Before 膨大な紙資料があり、必要な情報にたどり着けない

製造現場では、指示書作成やスケジュール管理、製造記録などが紙ベースで行われていました。これまでにかなりの量が蓄積されたため、何か問題が起きたときに必要な資料を探し出すのが大変でした。

After 高いセキュリティを担保しながら、素早く資料にアクセス可能

製造現場に素早い起動で高セキュリティな Chromebook を配備して、紙資料をデジタルデータ化したうえで Google ドライブに保存。製造過程で問題が起きても必要な情報をすぐ検索してアクセスできるので、対応スピードが向上しました。



【ケース2】在庫データをクラウド上で共有して受発注をスピード化

Before 集計に時間がかかり、最新情報が分からない

出荷現場の在庫チェックを記録した紙資料を本社へFAXした後、受注データと突き合わせていました。数字が合わなかった際の原因究明と修正作業に多くの時間を費やしていました。

After Chromebook で現場から素早く最新情報を共有

出荷現場に Chromebook を配備し、在庫情報は現場で直接入力するようにしました。入力データとなる Google スプレッドシートを本社と共有することで、作業ロスやコミュニケーションロスを大幅に削減。リアルタイムに在庫を把握できた結果、受発注業務もスムーズになるなど、各所で効率化が進みました。

付録 3

建設・不動産業でのDX事例

建設・不動産業での Chromebook 活用

建設・不動産業において、Chromebook はどのように活用できるのでしょうか。ここでは、実際の企業のケースをBefore／Afterで紹介します。

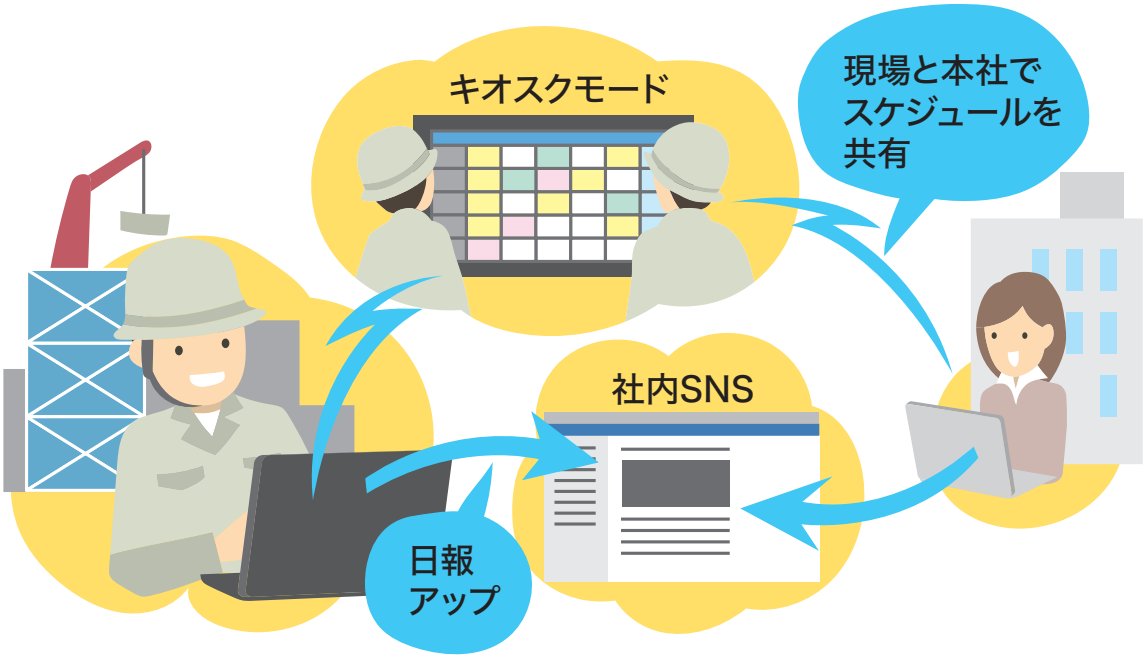
【ケース1】キオスクモードで建設現場に表示し、情報を本社と共有

Before 現場と本社との情報のやりとりがアナログのまま

建設現場からの日報はFAXで送信されたものを確認し、出入り業者のスケジュールは現場にあるホワイトボードで管理するなど、情報の管理と確認手段が煩雑化していました。

After デジタルな情報共有でお互いの状況をスムーズに把握

Chromebook を建設現場に配備し、日報は社内SNSの Google Currents にアップしました。業者のスケジュールは Google カレンダーに登録し、Chromebook のキオスクモードで現場のモニターに表示します。現場の情報が本社と共有され、確認がスムーズになりました。



【ケース2】1人1台端末で作業の停滞をなくして全体を効率化

Before **共有パソコンで業務が滞り、外出先と会社の無駄な往復も**

共有パソコンで物件情報などの書類を作成・印刷し、客先へ持参していました。複数名で使うため、パソコン利用のための順番待ちが発生することに。資料を作成するために、わざわざ外出先から事務所に戻る必要がありました。

After **1人1台端末で、すべての業務が改善**

Chromebook を1人1台導入して客先にも持ち出せるように改善しました。書類の作成･印刷がスムーズに行えるほか、営業に必要なツールを全員が持ち運べるようになり、客先では Chromebook を使ったプレゼンテーションも可能になりました。

小売業でのDX事例

小売業での Chromebook 活用

小売業において、Chromebook はどのように活用できるのでしょうか。ここでは、実際の企業のケースをBefore ／ Afterで紹介します。

【ケース1】全体的な情報共有で店舗運営を効率化

Before 各店舗の詳細な状況を把握できず売上に影響も

店舗の販売ノウハウがほかの店舗に共有されず、売上に偏りが出ている状況でした。本社でも各店舗の詳細な状況を把握するのに時間がかかっていました。

After 情報格差がなくなり、効率良い店舗運営が可能に

各店舗に Chromebook を配備して、社内SNSの Google Currents で、売上の高い店舗のディスプレイやチラシなどを写真で共有しました。店舗間で情報共有やコミュニケーションが活性化され、売上の高い店舗の事例を参考にすることで、他店舗での売上もアップしました。

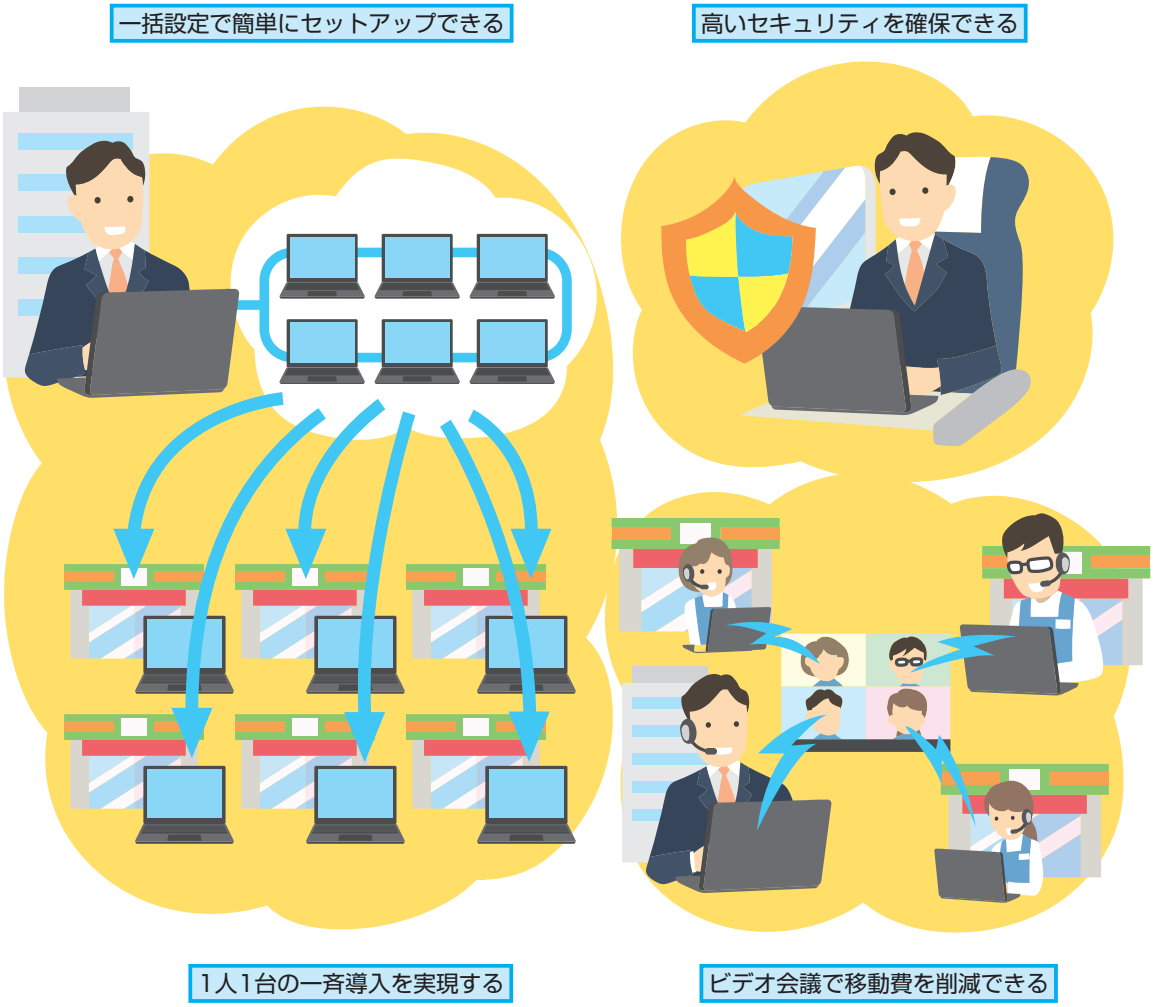
【ケース2】大規模導入の場合もクラウドからの一括設定で円滑に

Before　**店舗が多く、テレワークのための業務環境のアップデートが間に合わない**

古い端末を使用していたため、セキュリティ上の懸念からテレワークなどの新しい働き方に対応ができない状況でした。店舗数が多く、新しい端末をどう配備するかにも苦慮していました。

After　**容易な一括設定で全社展開を実現し、店舗間の移動費を削減**

セットアップが簡単な Chromebook を一斉導入しました。セキュリティが担保されたため、社内外での利用も可能になりました。各店舗へ配備しながら、エリアマネージャーやバイヤーには1人1台体制を実現してビデオ会議ができるように。拠点間の移動が大幅に削減しました。



飲食業でのDX事例

飲食業での Chromebook 活用

飲食業において、Chromebook はどのように活用できるのでしょうか。ここでは、実際の企業のケースをBefore ／ Afterで紹介します。

【ケース1】世界中で動画とマニュアルを共有し、食文化を広める

Before 技術の伝達に時間と労力がかかっていた

世界中の店舗に日本の食文化を広めることが目的でしたが、調理技術を伝えられる人が限られているため、各店舗への共有に時間がかかっていました。

After 厨房で動画を見てすぐに実践できるように

厨房に Chromebook を配備して、調理動画を Google ドライブで共有しました。職人の技など、非言語での情報も直感的に伝えられるようになりました。さらに Google スライドで作成した接客マニュアルを展開して、全世界で同じ文化・技術を共有できるようになりました。

【ケース2】キッチンやホールでの情報確認で、臨機応変な対応が可能に

Before **情報を得るためにわざわざ事務所に戻っていた**

売上や新メニュー、他店舗の情報などを現場ではすぐに確認できず、本社から送信されるたびに事務所に戻っていました。

After **必要な情報に、現場からスムーズにアクセス可能に**

各店舗のキッチンやホール、レジなどの現場に、複数台の Chromebook を導入しました。これにより事務所に戻ることなく、必要な情報にいつでもアクセス可能となりました。また、店舗の状況を本部に速やかに共有できるようになりました。

店舗内各所に Chromebook を設置し、情報にすぐにアクセスできる

本社にいながら店舗の状況をすぐにキャッチできる

■著者
株式会社ストリートスマート

2009年9月に創業。2014年1月には、日本初の Google トレーニングパートナーに認定され、その後 Google の専門能力開発パートナーの中で、初めてトランスフォーメーション分野のスペシャライゼーション認定（組織の状況にあわせて包括的な支援ができる企業への認定資格）を受ける。誰もが新しいテクノロジーを活用できる社会づくりをミッションとし、「テクノロジーの翻訳家」として人々に分かりやすく伝え、活用を促進している。Google Cloud を活用したデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進や、Google Workspace を効果的に活用するための導入支援・教育支援・コンサルティングを多業種の企業に実施。登録者数が18万人を超えている Google Workspace の活用教育サービスMaster Programには、分かりやすい教育動画コンテンツが豊富にそろっており、企業による Google Workspace の効果的な活用を促進している。

「できるChromebookから始まるDX」（以下、本書）は、株式会社ストリートスマートから株式会社インプレスが委託を受けて制作した特別版です。本書は無償で提供されるものであり、本書の使用または使用不能により生じたお客様の損害に対して、著者、株式会社ストリートスマートならびに株式会社インプレスは一切の責任を負いかねます。また、本書に関するお問い合わせはお受けしておりません。あらかじめご了承ください。

できる Chromebook（クロームブック） から始（はじ）まる DX
デジタルトランスフォーメーション

編集 ―――――― できるシリーズ編集部
執筆 ―――――― 株式会社ストリートスマート
シリーズロゴデザイン ― 山岡デザイン事務所
カバーデザイン――― 横川信之
本文イメージイラスト ― 原田 香
DTP制作 ――――― 株式会社トップスタジオ

2022 年 1 月　初版発行

発行　株式会社インプレス
〒 101-0051
東京都千代田区神田神保町一丁目 105 番地

Copyright © 2022 STREET SMART. and Impress Corporation. All rights reserved.

本書の内容はすべて、著作権法によって保護されています。著者および発行者の許可を得ず、転載、複写、複製等の利用はできません。

「できるサポート」では、本書に関するお問い合わせにはお答えしておりません。あらかじめご了承ください。

Google Workspace の導入から活用まで徹底サポート

**Google メソッドに基づいて、Google Workspace の導入計画から
導入時の支援、そして活用推進までワンストップでご支援**

Google Workspace 導入決定 / グランドデザイン策定 → 方針・計画策定 → 導入 / 教育 / 初期サポート → 継続的な活用推進

検討フェーズ
単なるシステムの導入・切替に留まらず、Google Workspace を活かした業務改善や生産性向上などの活用方針や、社内浸透向け教育計画策定など

計画フェーズ

導入・教育フェーズ
導入支援、トレーニング、教育コンテンツ提供、初期サポートなど

推進フェーズ
Google Workspace の活用支援や利用状況の測定を実施し定着化

EXCITE | ENABLE | EXPAND | EMBED

Google Workspace 活用のプロによる レクチャー動画サービス Master Program

MASTER PROGRAM

**パソコン・スマホでいつでも学べる Google Workspace の
サブスクリプション型教育サービス**

Gmail | ドライブ | カレンダー | Meet
Chat | フォーム | Keep | Chrome

業務での活用方法 | 新機能の共有

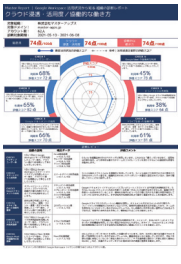
多くの企業様への訪問トレーニングやコンサルティングで培ってきたノウハウを凝縮した、プロトレーナーによるレクチャー動画を中心とする Google Workspace 教育サービスです。1アカウント初年度720円（税別）という低価格で、企業規模を問わず、社内のスキル底上げにご利用いただけます。

無料トライアル提供中
2週間、すべての教材コンテンツをご覧いただけます。
https://master-apps.jp/master-program/

Google Workspace 活用状況を無料診断　Master Report

**アプリの利用率から、組織のクラウド浸透度・
コラボレーティブな行動レベルまで見える化**

Google Workspace の活用状況を数値化し、組織のクラウド活用状況、そして業務上のコラボレーション行動など協働的な働き方がどの程度浸透しているかを診断できます。本ツールは Google Workspace の利用状況をまずは知っていただき、よりよく活用いただくために開発したものです。社内の Google Workspace 活用状況の見える化と改善のために、ぜひご利用ください。



MASTER REPORT

無料診断はコチラ
Web サイト上で無料診断をすぐに実施いただけます。
https://www.master-apps.jp/report/

Google Workspace のことは、私たち、Google 認定パートナーにお任せください

株式会社ストリートスマート　https://www.master-apps.jp/
TEL：0120-373-996
フォーム：https://www.master-apps.jp/inquiry/

Google Cloud Partner
SPECIALIZATION Work Transformation Google Cloud
STREET SMART

できる Chromebookから始まるDX
デジタルトランスフォーメーション

非売品

「できるシリーズ」は、画面で見せる入門書の元祖です。

見開き完結のレッスンを基本とし、レッスン1から順を追って
進めていくことで、楽しみながらパソコンの操作を学べます。
また、レッスンを進めるにしたがって、必要な知識が身に付く構成に
なっています。できるシリーズなら、はじめての人でも安心です。

- オールカラーの紙面でわかりやすく解説
- レッスン単位でステップアップ学習できる
- 各レッスンごとに重要ポイントを掲載
- 関連知識をヒント形式で解説

impress 株式会社インプレス